

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジキョウキョウシヨウダいがく 学校法人 東京女子大学								
フリガナ大学の名称	トキョウジヨウシヤダいがく 東京女子大学 (Tokyo Woman's Christian University)								
大学本部の位置	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号								
大学の目的	東京女子大学は、キリスト教を教育の根本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教養を授け、専門の学術を教授研究し、もって真理と平和を愛し人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	心理・コミュニケーション学科は、心理学、コミュニケーションの分野を横断的に学ぶことを通して、分析能力、問題解決能力を養い、人間・社会・世界を科学的に探究し、現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人物の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地	
	現代教養学部 (School of Arts and Sciences) 心理・コミュニケーション学科 (Division of Psychology and Communication)	4	195	-	780	学士(教養)	平成30年4月 第1年次	東京都杉並区善福寺二丁目6番1号	
	計		195	-	780				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成30年4月 現代教養学部 国際英語学科 (155) (平成29年4月届出予定) 人文学科 [定員減] (△145) (平成30年4月) 国際社会学科 [定員増] (45) (平成30年4月) 人間科学科 (廃止) (△260) ※平成30年4月学生募集停止 数理科学科 [定員増] (10) (平成30年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	現代教養学部 心理・コミュニケーション学科	講義 228科目	演習 106科目	実験・実習 25科目	計 359科目	130単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	現代教養学部 心理・コミュニケーション学科	15人 (15)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	18人 (18)	1人 (1)	268人 (197)
		現代教養学部 国際英語学科	7 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (10)	0 (0)	254 (200)
		計	22 (21)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	29 (28)	1 (1)	-
	既設	現代教養学部 人文学科	12 (13)	7 (6)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	2 (2)	304 (304)
		現代教養学部 国際社会学科	19 (20)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	24 (23)	1 (1)	292 (288)
		現代教養学部 数理科学科	8 (10)	5 (3)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	2 (3)	253 (261)
		共通教育	12 (13)	10 (9)	7 (7)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)
		情報処理センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	5 (5)
		比較文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	16 (16)
女性学研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	
計	51 (56)	25 (19)	10 (10)	0 (0)	86 (85)	8 (9)	-		
合計	73 (77)	32 (26)	10 (10)	0 (0)	115 (113)	9 (10)	-		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		100 人 (100)	33 人 (33)	133 人 (133)					
	技 術 職 員		2 (2)	3 (3)	5 (5)					
	図 書 館 専 門 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		108 (108)	36 (36)	144 (144)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	80,218㎡	㎡	㎡	80,218㎡	大学全体				
	運 動 場 用 地	9,235㎡	㎡	㎡	9,235㎡					
	小 計	89,453㎡	㎡	㎡	89,453㎡					
	そ の 他	5,080㎡	㎡	㎡	5,080㎡					
	合 計	94,533㎡	㎡	㎡	94,533㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		23,256㎡ (23,256㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	23,256㎡ (23,256㎡)	大学全体				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	52室	25室	31室	7室 (補助職員0人)	7室 (補助職員7人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		現代教養学部 心理・コミュニケーション学科			18 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定不能なため、大学全体の数		
	現代教養学部 心理・コミュニケーション学科	552,000 [146,000] (518,346 [139,208])	13,030 [9,860] (12,867 [1,733])	8,090 [8,080] (7,931 [7,353])	11,527 10,847	8,107 (8,107)	34 (34)			
	計	552,000 [146,000] (518,346 [139,208])	13,030 [9,860] (12,867 [1,733])	8,090 [8,080] (7,931 [7,353])	11,527 10,847	8,107 (8,107)	34 (34)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		5,763 ㎡		750 席	562,000冊					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		1,688㎡								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。 *学生納付金は、心理学専攻は各年次5千円加算	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		480千円	480千円	480千円	480千円			
		共同研究費等		5,589千円	5,589千円	5,589千円	5,589千円			
		図書購入費	107,040千円	107,040千円	107,040千円	107,040千円	107,040千円			
	設備購入費	9,560千円	9,560千円	9,560千円	9,560千円	9,560千円				
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,240千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称		東京女子大学								
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
現代教養学部									東京都杉並区善福寺 平成30年度より募集停止	
人文学科		4	345	—	1,380	学士(教養)	1.13	平成21年度		
国際社会学科		4	225	—	900	〃	1.12	〃		
人間科学科		4	260	—	1040	〃	1.08	〃		
数理学科		4	60	—	240	学士(理学)	1.22	〃		
計		—	890	—	3,560		1.12			

名称 東京女子大学エンパワーメント・センター 目的 自分自身をエンパワーすることにより、生涯にわたるキャリアを歩み、性別、国籍、宗教、職業、身体状況、年齢等の多様性を受容し、共生社会の形成に貢献する本学学生、卒業生及び修了生、加えて地域住民等を支援・育成する。 所在地 東京都杉並区善福寺二丁目6番1号 設置年月 平成25年4月 規模等 兼担教員：センター長1名、運営委員3名
--

- 3 私立の大学又は高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	広告と消費者心理	2・3・4後		2		○			1							
	ジェンダーとメディア	2・3・4後		2		○			1							
	グローバルメディア	2・3・4前		2		○								兼1		
	デザイン思考 I	2・3・4前		2		○								兼1		
	デザイン思考 II	2・3・4後		2		○								兼1		
	ユニバーサルデザイン (人間中心設計)	2・3・4前		2		○			1							
	ユニバーサルデザイン (心理物理)	2・3・4後		2		○			1							
	デザイン心理(視覚)	2・3・4後		2		○								兼1		
	デザイン心理(聴覚)	2・3・4前		2		○			1							
	ICTリテラシー I	2・3・4前		2		○								兼1		コミュニケーション 専攻は2単位必修
	ICTリテラシー II	2・3・4後		2		○								兼1		
	インターネット・バイ・デザイン I	2・3・4前		2		○								兼1		
	インターネット・バイ・デザイン II	2・3・4後		2		○								兼1		
	Webデザイン	2・3・4前		2		○			1							
	SNSコミュニティデザイン	2・3・4前		2		○								兼1		
	ユーザニーズ分析	2・3・4後		2		○								兼1		
	コミュニケーションと女性のキャリア	2・3・4前		2		○								兼1		
	多文化コミュニケーション	2・3・4後		2		○								兼1		
	対人コミュニケーション(家族)	2・3・4前		2		○								兼1		
	対人コミュニケーション(社会)	2・3・4後		2		○								兼1		
	対人コミュニケーション(ジェンダー)	2・3・4前		2		○			1							
	ダイバーシティとコミュニケーション	2・3・4後		2		○			1							
	文化心理学(文化と自己)	2・3・4前		2		○			1							
	文化心理学(文化と認知)	2・3・4後		2		○								兼1		
	文化心理学 (グローバル社会)	2・3・4後		2		○			1							
	多文化教育	2・3・4前		2		○								兼1		コミュニケーション 専攻は2単位必修
	日本語教育研究概論 I	2前		2		○			1							
	日本語教育研究概論 II	2後		2		○			1							
	日本語教育研究 I	3前		2		○			1							
	日本語教育研究 II	3後		2		○			1							
	多文化コミュニケーション・デザイン	2・3・4後		2		○			1							
	ことばと文化	2・3・4後		2		○			1							
	言語コミュニケーション能力の発達	2・3・4前		2		○								兼1		
	言語の多様性と普遍性A	2・3・4前		2		○			1							
	言語の多様性と普遍性B	2・3・4後		2		○			1							
	第二言語習得基礎論A	2前		2		○								兼1		
	第二言語習得基礎論B	2後		2		○								兼1		
	社会言語学A	2・3・4前		2		○								兼1		
	社会言語学B	2・3・4後		2		○								兼1		
	日本語学 (表記・語彙) A	2・3・4前		2		○								兼1		
	日本語学 (表記・語彙) B	2・3・4後		2		○								兼1		
	日本語学 (文法・談話) A	2・3・4前		2		○								兼1		
	日本語学 (文法・談話) B	2・3・4後		2		○								兼1		
	小計 (71科目)	—	0	142	0	—			15	3	0	0	0	兼31		

*
(履修方法の
欄参照)

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎演習	1年次演習 (心理学)	1前		2			○		2	3				兼1	心理学専攻は必修 コミュニケーション専攻は必修 * (履修方法の欄参照)
	2年次演習 (心理学) A	2前		2			○		3	1				兼2	
	2年次演習 (心理学) B	2後		2			○		2	3				兼1	
	心理学実験入門	1前		2			○		1						
	1年次演習 (コミュニケーション)	1前		2			○		2					兼3	
	2年次演習 (コミュニケーション)	2前		2			○		5					兼1	
	コミュニケーション研究法入門	2後		4			○		3					兼2	
	アプリ作成入門	1後		2			○		1						
	Webプログラミング I	2前		2			○							兼1	
	Webプログラミング II	2後		2			○		1						
	オーラルコミュニケーションスキルズ	2・3後		2			○							兼1	
	言語情報処理 I	2・3前		2			○							兼1	
言語情報処理 II	2・3後		2			○							兼1		
小計 (13科目)	—		0	28	0		—	14	3	0	0	0	兼11		
発展演習	3年次演習 (心理学)	3前		2			○		5	3				兼1	心理学専攻は必修 コミュニケーション専攻は必修 コミュニケーション専攻は2単位必修 コミュニケーション専攻は2単位必修
	4年次演習 (心理学) A	4前		2			○		5	3				兼1	
	4年次演習 (心理学) B	4後		2			○		5	3				兼1	
	心理学特殊演習 (先端)	3・4前		2			○		1						
	心理学特殊演習 (応用)	3・4後		2			○			1					
	3年次演習 (コミュニケーション) I	3前		2			○		10					兼3	
	3年次演習 (コミュニケーション) II	3後		2			○		10					兼3	
	4年次演習 (コミュニケーション) I	4前		2			○		10					兼3	
	4年次演習 (コミュニケーション) II	4後		2			○		10					兼3	
	コミュニケーション研究法実習 (実験法)	3前		2			○		1						
	コミュニケーション研究法実習 (内容分析)	3前		2			○		1						
	コミュニケーション研究法実習 (質的研究)	3前		2			○							兼1	
	社会調査法実習 (質問紙調査) I	3前		2			○		1						
社会調査法実習 (質問紙調査) II	3後		2			○		1							
多変量解析	3後		2			○		1					兼1		
小計 (15科目)	—		0	30	0		—	15	3	0	0	0	兼7		
実験・実習	心理検査実習 I	1後		1			○		1						心理学専攻は必修 オムニバス・共同(一部) オムニバス 心理学専攻は 1 単位必修 心理学専攻は必修
	心理検査実習 II	2前		1			○		1						
	心理学実験演習 I A	2前		1			○			1				兼1	
	心理学実験演習 I B	2後		2			○							兼3	
	心理学実験演習 II (実験法)	3前		1			○		1					兼1	
	心理学実験演習 II (調査法)	3前		1			○							兼1	
	心理学実験演習 II (質的アプローチ)	3前		1			○			1					
	心理学実験演習 III (実験法)	3・4前		1			○							兼1	
	心理学特殊実験演習	3後		2			○		5	3				兼1	
日本語教育実習	4通		4			○		1					兼1		
小計 (10科目)	—		0	15	0		—	6	3	0	0	0	兼5		
卒業論文	卒業論文	4通	8				○		15	3				兼4	
	小計 (1科目)	—	8	0	0		—	15	3	0	0	0	兼4		
学科合計 (126科目)		—	14	241	0		—	15	3	0	0	0	兼45		

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	宗教と現代社会	1・2・3・4後		2		○								兼1	オムニバス・共同 (一部) } ①と②を交互に開講 ①「美術論」「映像論」 ②舞台芸術論 ←2単位必修
	総合教養演習 (人間自身を知る)	2・3・4前		2		○		1							
	(人間の知的生産)														
	ことばの世界	1・2・3・4前後		2		○								兼2	
	日本の文学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	児童文学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	比較文学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	比較文化	1・2・3・4前		2		○								兼3	
	宗教音楽	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	音楽芸術	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	音楽史	1・2・3・4前後		2		○								兼1	
	美術論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	映像論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	舞台芸術論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本文化史	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本の伝統芸能	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	世界の地域と民族	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アメリカの歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	ラテンアメリカの歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	アジアの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	民俗学	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	歴史の見方	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代史の諸相	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アーカイブの世界	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	総合教養演習 (人間の知的生産)	2・3・4前		2			○							兼1	
	(人間社会の仕組みと問題)														
	日本国憲法	1・2・3・4前後		2		○								兼3	
	公共政策と法	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	市民社会と法	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際社会と人権	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	自治と行政	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会学と現代社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	地域社会論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会保障と社会福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	情報と社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代社会と教育	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	近現代日本の政治史	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	国際社会と日本	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	平和学	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ヨーロッパの比較政治	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	アジアの比較政治	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本の産業と企業	1・2・3・4後		2		○								兼1	

交互に開講

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	日本経済のしくみ	1・2・3・4前		2		○									兼1	} 交互に開講
	グローバル経済のしくみ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	アジアの経済事情	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	国際金融と貿易	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計のしくみ	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計分析を学ぶ	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	エネルギー産業と国民生活	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	総合教養演習 (人間社会の仕組みと問題)	2・3・4後		2			○								兼1	
	(女性のウェルネス)															
	女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	1前	1					○								
	女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	1後	1					○								兼9
	講義															
	からだの科学	1・2・3・4前		2		○										兼1
	発育と発達	1・2・3・4前		2		○										兼1
	栄養と健康	1・2・3・4前		2		○										兼1
	現代社会と身体	1・2・3・4前		2		○										兼1
	女性の健康科学	1・2・3・4後		2		○										兼1
	性と生命 (セクソロジー)	1・2・3・4後		2		○										兼1
	女性の心身コンディショニング	2・3・4後		2		○										兼1
	実習															
	スポーツA	2・3・4後		1				○								兼1
	スポーツB	2・3・4後		1				○								兼1
	スポーツC	2・3・4後		1				○								兼1
	スポーツD	2・3・4前		1				○								兼1
	フィジカルエクササイズA	2・3・4前後		1				○								兼1
	フィジカルエクササイズB	2・3・4前後		1				○								兼1
フィジカルエクササイズC	2・3・4前		1				○								兼1	
身体表現A	2・3・4前		1				○								兼1	
身体表現B	2・3・4後		1				○								兼1	
身体表現C	2・3・4前		1				○								兼1	
小計 (113科目)	—		2	212	0		—		4	0	0	0	0		兼92	
挑戦する知性科目	ケンブリッジ教養講座	2・3・4通		2		○			—	—	—	—	—		—	
	PBLキャリア構築講座	2・3・4後		2			○								兼1	
	英語特別プログラム	2・3・4通		2			○								兼1	
	Critical Thinking演習	2後		2			○								兼1	
	発話・パフォーマンス演習	2前		2			○								兼1	
	討論演習1	3前		2			○								兼2	
	討論演習2	3後		2			○								兼2	
	Total Presentation演習1	4前		2			○								兼2	
	Total Presentation演習2	4後		2			○								兼2	
	小計 (9科目)	—		0	18	0		—		0	0	0	0	0		兼6
キリスト教学科目	キリスト教学Ⅰ (入門Ⅰ)	1前	2			○									兼2	
	キリスト教学Ⅰ (入門Ⅱ)	1後	2			○									兼2	
	キリスト教学Ⅱ (旧約聖書の世界)	2・3・4後		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅱ (新約聖書の世界)	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と女性)	2・3・4前		2		○									兼1	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教の歴史)	2・3・4後		2		○									兼1	

「身体表現C」と交互に開講

「身体表現A」と交互に開講

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	キリスト教学Ⅱ (日本のキリスト教)	2・3・4前		2		○								兼1	2単位必修 } 毎年1科目開講	
	キリスト教学Ⅱ (世界のキリスト教)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と社会)	2・3・4前		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と現代の宗教事情)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と倫理)	2・3・4前		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教の思想)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と芸術)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と文学)	2・3・4前		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅲ (聖書と文化)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅲ (キリスト教の歴史と文化)	2・3・4後		2		○								兼1		
	キリスト教学Ⅲ (キリスト教の思想と文化)	2・3・4後		2		○								兼1		
	小計 (17科目)	—	4	30	0	—			0	0	0	0	0	兼4		
外国語科目	(第一外国語)														1単位必修	
	Communication Skills A	1前	1			○								兼8		
	Communication Skills B	1後	1			○								兼8		
	Reading I A	1前	1			○								兼15		
	Reading I B	1後	1			○								兼15		
	Discussion Skills A	2前	1			○								兼9		
	Discussion Skills B	2後	1			○								兼5		
	Reading II A	2前	1			○			1					兼15		
	Reading II B	2後	1			○			1					兼7		
	Speaking Skills A	2・3・4前		1			○							兼5		
	Speaking Skills B	2・3・4後		1			○							兼5		
	Listening and Presentation A	2・3・4前		1			○							兼5		
	Listening and Presentation B	2・3・4後		1			○							兼5		
	Critical Reading and Discussion A	2・3・4前		1			○							兼5		
	Critical Reading and Discussion B	2・3・4後		1			○							兼5		
	Journalistic English A	2・3・4前		1			○							兼2		
	Journalistic English B	2・3・4後		1			○							兼2		
	Academic Writing A	2・3・4前		1			○							兼2		
	Academic Writing B	2・3・4後		1			○							兼3		
	English through Drama A	2・3・4前		1			○							兼1		
	English through Drama B	2・3・4後		1			○							兼1		
	English for Specific Purposes															
	Business English A	2・3・4前		1			○									兼1
	Business English B	2・3・4後		1			○									兼1
	Translation A	2・3・4前後		1			○									兼1
	Translation B	2・3・4前後		1			○									兼1
	Tour Guide Interpreting A	2・3・4前		1			○									兼1
Tour Guide Interpreting B	2・3・4後		1			○								兼1		
English Proficiency Test Classes																
TOEIC講座	1・2・3・4前後		1			○								兼3		
TOEFL講座	1・2・3・4前後		1			○								兼2		
IELTS講座	1・2・3・4前後		1			○								兼2		
Basic Communicative English	1前		2			○								兼2		
Intensive English	1・2・3・4通		2			○			—	—	—	—	—	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	(第二外国語)														
	ドイツ語初級	1通		4			○								兼4
	フランス語初級	1通		4			○								兼8
	スペイン語初級	1通		4			○								兼11
	中国語初級	1通		4			○								兼14
	韓国語初級	1通		4			○								兼8
	ドイツ語 (読解) A	2・3・4前後		1			○								兼1
	ドイツ語 (読解) B	2・3・4前後		1			○								兼1
	ドイツ語 (作文と文法)	2・3・4前後		1			○								兼1
	ドイツ語 (会話)	2・3・4前後		1			○								兼1
	フランス語 (読解) A	2・3・4前後		1			○								兼2
	フランス語 (読解) B	2・3・4後		1			○								兼1
	フランス語 (作文と文法)	2・3・4前後		1			○								兼1
	フランス語 (会話)	2・3・4前後		1			○								兼3
	スペイン語 (読解) A	2・3・4前後		1			○								兼1
	スペイン語 (読解) B	2・3・4前後		1			○								兼1
	スペイン語 (作文と文法)	2・3・4前後		1			○								兼2
	スペイン語 (会話)	2・3・4前後		1			○								兼1
	中国語 (読解) A	2・3・4前後		1			○								兼1
	中国語 (読解) B	2・3・4前後		1			○								兼1
	中国語 (作文と文法)	2・3・4前後		1			○								兼3
	中国語 (会話)	2・3・4前後		1			○								兼3
	韓国語 (読解) A	2・3・4前		1			○								兼1
	韓国語 (読解) B	2・3・4後		1			○								兼1
	韓国語 (作文と文法)	2・3・4前後		1			○								兼1
	韓国語 (会話)	2・3・4前後		1			○								兼2
	(ギリシア語・ラテン語)														
	ギリシア語初級1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	ギリシア語初級2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	ラテン語初級1	1・2・3・4前		1			○								兼1
	ラテン語初級2	1・2・3・4後		1			○								兼1
	小計 (60科目)	—	8	69	0		—		1	0	0	0	0	0	兼113
日本語科目	日本語表現法	1・2限定 前後		2			○			1					兼7
	小計 (1科目)	—	0	2	0		—		1	0	0	0	0	0	兼7
情報処理科目	情報処理技法 (リテラシ) I	1前	2				○								兼7
	情報処理技法 (リテラシ) II	1後	2				○								兼8
	情報処理技法 (Cプログラミング) I	1・2・3・4前後		2			○								兼2
	情報処理技法 (Cプログラミング) II	2・3・4前		2			○								兼1
	情報処理技法 (Javaプログラミング) I	1・2・3・4前後		2			○								兼2
	情報処理技法 (Javaプログラミング) II	2・3・4後		2			○								兼1
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) I	1・2・3・4前後		2			○								兼1
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) II	2・3・4後		2			○		1						兼1
	情報処理技法 (UNIXリテラシ)	1・2・3・4後		2			○								兼1
	情報処理技法 (統計解析)	2・3・4前後		2			○								兼2
	情報処理技法 (ネットワークとセキュリティ)	2・3・4後		2			○								兼1
	情報処理技法 (Webでの情報表現)	2・3・4前		2			○		1						兼1

4単位必修

教 育 課 程 等 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	コンピュータ・サイエンスⅠ	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	コンピュータ・サイエンスⅡ	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	小計 (14科目)	—	4	24	0	—			2	0	0	0	0	0	兼15		
学芸員課程科目	博物館概論	2前		2		○									兼1	学芸員の資格を得ようとする者は必修	
	博物館資料論	2前		2		○									兼1		
	博物館経営論	2・3後		2		○									兼1		
	博物館資料保存論	2・3後		2		○									兼1		
	博物館展示論	2・3後		2		○									兼1		
	博物館教育論	2・3前		2		○									兼1		
	生涯学習論	2・3・4前		2		○									兼1		
	博物館情報・メディア論	2・3・4前後		2		○									兼1		
	博物館実習1	3前			1			○							兼2		
	博物館実習2	3後			1			○							兼2		
博物館実習3	4通			1			○							兼1			
	小計 (11科目)	—	0	16	3	—			0	0	0	0	0	0	兼8		
外国人留学生特別科目	日本語Ⅰ (入門)	1前		4				○	1						兼1	第一外国語の必修8単位に代替	
	日本語Ⅱ (応用)	1後		4				○	1						兼1		
	英語初級Ⅰ	1前		2				○							兼1	第二外国語の必修5単位に含める	
	英語初級Ⅱ	1後		2				○							兼1		
	日本事情A	1前		2		○									兼1	総合教養科目の「人間社会の仕組みと問題」2単位に代替	
	日本事情B	1後		2		○									兼1	総合教養科目の「人間の知的生産」2単位に代替	
	日本事情C	2前		2		○									兼1	総合教養科目の「人間自身を知る」2単位に代替	
	日本事情D	2後		2		○									兼1	総合教養科目の「人間の知的生産」2単位に代替	
	小計 (8科目)	—	0	20	0	—			2	0	0	0	0	0	兼6		
全学共通カリキュラム等 合計 (233科目)			18	391	3	—			10	0	0	0	0	0	0	兼236	
合計 (359科目)			—	32	632	3	—		15	3	0	0	0	0	0	兼276	
学位又は称号	学士 (教養)		学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係											
卒業要件及び履修方法											授業期間等						
卒業要件 4年以上在学し所定科目につき130単位以上を修得しなければならない。 修得すべき授業科目と単位数は、次のとおりとする。 (1) 総合教養科目 必修科目2単位及び選択必修科目16単位 18単位 (2) キリスト教学科目 必修科目4単位及び選択必修科目2単位 6単位 (3) 外国語科目※ 第一外国語 必修科目8単位及び選択必修科目1単位 9単位 第二外国語 選択必修科目 4単位 計13単位 ※ただし、外国人正規課程留学生は、日本語を第一外国語として8単位、英語を第二外国語として5単位計13単位を修得する。 (4) 情報処理科目 必修科目 4単位 (5) 学科科目 (自学科) 必修科目14単位、選択必修科目42単位、選択科目合わせて 64単位 (6) 自由選択科目 25単位											1学年の学期区分	2学期					
											1学期の授業期間	15週					
											1時限の授業時間	90分					
履修方法 履修科目の登録単位数の上限は、原則として1年間に44単位とする。 コミュニケーション専攻の学生は、特殊講義及び基盤演習の「*」印の範囲において10単位を修得しなければならない。ただし、必ず特殊講義の選択必修3科目計6単位を含めなければならない。 4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数130単位のうち、所定の科目の単位を含む86単位を修得していなければならない。																	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 入門	心理・コミュニケーション概論	<p>人間を見つめ直し自分を発見する学科の営みの第一歩として、心理学・コミュニケーションの2つの領域のチェーンレクチャーを通して、人間の心と行動を科学する。心という捉えにくい対象をいかに科学的に捉えるのかという理論や方法論を紹介する。それを踏まえて、心理学が明らかにしてきた人間の心の特性について概括する。また、人間は、社会の中でどのような情報をどのように発信・受信し、社会を構成する他者と関わり、共生していくのかについて、コミュニケーションの視点から考察していく。また、人間とICTのコミュニケーションの観点から情報デザインについて解説する。さらに、言語、文化、宗教など、さまざまな背景をもつ他者との関わり、多文化共生社会の中で、生きる人間について、論じる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (H30年度 11 田中章浩・17 平林秀美・18 森田慎一郎・4 石井恵理子・5 唐澤真弓・15 渡辺隆行、H31年度 11 田中章浩・12 田中健夫・10 柴山雅俊・4 石井恵理子・5 唐澤真弓・1 小田浩一、H32年度 11 田中章浩・13 前川あさ美・16 花田里欧子・4 石井恵理子・5 唐澤真弓・56 加藤尚吾、H33年度 11 田中章浩・17 平林秀美・10 柴山雅俊・4 石井恵理子・5 唐澤真弓・59 白銀純子／3回) (共同) イントロダクションと展望、まとめ</p> <p>(11 田中章浩／2回) (心理学を学ぶ:基礎・社会)目や耳などから入ってきた情報を知覚し、注意を向け、記憶するといった「こころの入口」の仕組みについて、実験という科学的手法を用いて、どのように調べられてきて、どのようなことが明らかとなっているのかを、具体例を通して学ぶ。</p> <p>(H30年度・H33年度:17 平林秀美、H31年度:12 田中健夫、H32年度:13 前川あさ美／2回) (心理学を学ぶ:発達)乳幼児期、児童期、青年期にかけての認知発達および情緒・社会性の発達について、各時期の発達上のテーマがどのように取り上げられ、どのように研究が進められてきたかについて、具体例を通して学ぶ。</p> <p>(H30年度:18 森田慎一郎、H31年度・H33年度:10 柴山雅俊、H32年度:16 花田里欧子／2回) (心理学を学ぶ:臨床)臨床心理学の領域における人間の理解、適応不応の概念、介入支援の方法などについて、家族、職場、地域といった環境との関わりを通じた視点から、研究や具体例を通して学ぶ。</p> <p>(H30年度:15 渡辺隆行、H31年度:1 小田浩一、H32年度:56 加藤尚吾、H33年度:59 白銀純子／2回) (人間とICTのコミュニケーション:情報デザイン)情報デザインは、ICTが不可欠な現代社会において、ユーザである人間が、モノやコトの利用によってうれしい体験を得るための、人間中心のデザインである。コミュニケーションの観点から情報デザインを解説し、例をあげて説明する。</p> <p>(5 唐澤真弓／2回) (コミュニケーションを学ぶ:社会)メディアなどにある社会情報が、私たちの思考や認知に影響するプロセスを知り、またそれらの情報を人間が作り出していくという文化的産物の創出の例をみながら、社会におけるコミュニケーションを理解していく。</p> <p>(4 石井恵理子／2回) (コミュニケーションを学ぶ:多文化)多文化の背景となることばに着目しながら、ひとをわけたりつなげたりしていくプロセスや理解と誤解をもたらす多文化社会多文化言語について解説していく。</p>	オムニバス方式・共同（一部）
		心理学概論	<p>この講義では、初めて心理学に触れることになる1年次の学生を対象に、心理学の4分野を網羅的に概観し、心理学全体にわたる基本的な知識を身に付けることを目標とする。心理学の全体像をつかんだうえで、心理学の考え方やもの見方を理解することも目標とする。講義の範囲は、知覚・記憶・学習・思考・感情・動機づけ・発達・社会・知能・パーソナリティ・臨床などの領域をできるだけ広く網羅する。領域ごとに異なる研究方法についても学ぶ。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニケーション概論I	コミュニケーション研究の全体像を概観し、基本的知識を学ぶ。多様化・情報化が進む社会におけるコミュニケーションについて理解を深め、他者とメディアによって伝えられる情報の特徴、それらが自己と他者理解、人間行動、社会認識にどのように関わっているかを考える。そのための基礎的内容として、言語と非言語コミュニケーション、対人コミュニケーション、コミュニケーションと社会的認知・社会的影響、多文化社会とコミュニケーション、メディアの送り手、内容、効果、インターネットにおけるコミュニケーションなどについて学ぶ。	
	コミュニケーション概論II (メディア)	マス・コミュニケーションという研究領域は学際的な研究分野であり、他の学問分野よりも歴史が浅い。この授業では、マス・コミュニケーション研究がどのように発展してきたかを理論的変遷と共に学ぶ。また、マス・コミュニケーションの効果・影響に関する古典的研究から新しい研究までを学ぶことで、マス・コミュニケーションとオーディエンス・社会との関係について考える。そうした知識を踏まえ、マス・コミュニケーションの使命・役割について多角的な視点から検討する。	
	コミュニケーション概論II (情報デザイン)	コミュニケーション専攻1年生の入門科目として、前提知識を必要とせず、情報デザインの基本を学ぶ科目である。情報デザインはICTが不可欠な現代社会をより良くデザインすることであり、イノベーションを生む発想法としてデザイン思考が注目されている。そのような背景を念頭に置いて、情報デザインとデザイン思考の基本をグループワークやワークショップなどの実践的内容を交えて学ぶ。この授業を、人間を幸せにするICTの使い方を考える出発点とすることを目的とする。	
	コミュニケーション概論II (多文化)	現代世界において、人は多様な文化に出会う。自文化との接触にはじまり、他の文化と出会い、他の文化と自分の文化を比較することにより、個人の意識や行動パターンは変化していく。ここでは、多様なルートによる異文化接触の具体的事例を通して、個人が新しい文化や他者との出会いを通してどのように成長し、変化していくかを学ぶ。具体的には「文化とコミュニケーション」に関する研究の流れ、異文化適応・文化人類学・異文化教育・文化心理学などに関する理論について学んでいく。	
基 盤 講 義	基礎心理学概論	この講義では、心理学を4分野に大別したうちの基礎心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。講義の範囲は、知覚・記憶・思考・生理・神経など基礎心理学の領域をできるだけ広く網羅する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ心の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。	
	社会心理学概論	この講義では、心理学を4分野に大別したうちの社会心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。さまざまに異なる個人が関係を結ぶことで成り立つ社会において、その構成員である個々の人間は複雑な相互作用のもとに行動している。「社会心理学概論」では、他者がいる場面での人の心理過程および行動、個人間の相互作用過程、さまざまな対人関係、さらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を扱う。	
	発達心理学概論	この講義では、心理学を4分野に大別したうちの発達心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。人間の発達とは何かを考え、発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。生涯発達心理学の視点から、乳幼児期・児童期・青年期・老年期について学んでいく。また、対人関係の発達・自己の発達・情動発達・道徳性の発達などの社会性の発達の側面と、知覚の発達・言語発達・コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両面から扱う。	
	臨床心理学概論	この講義では、心理学を4分野に大別したうちの臨床心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。まず、臨床心理学はいかにして、悩みや心の病、人生での困難への支援という実践的な科学という側面をもちながら、現在のような研究・実践(臨床)面での発展を遂げてきたのか、歴史的に振り返る。その上で、臨床心理学の3本柱である、アセスメント論・心理面接論・地域援助論について、代表的な理論・技法を取り上げ、学生が重要なエッセンスを習得できるように講義を行う。	
	心理学統計法 1	心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方について理解することを目的とする。この講義においては、心理統計の考え方について触れた後、記述統計および推測統計について、統計的な内容を実際の心理学研究に結びつけ、数値例を用いながら学んでいく。具体的には、「心理学実験演習 I A・I B」で求められるデータの扱いができるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学統計法 2	心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方、さらに、それを論文という形でまとめる方法について理解することを目指す。この講義においては、データ整理、統計分析の実際を学ぶ。さらに、分析結果のまとめ方、論文での結果の書き方について解説し、ルールに則って正しくかつ分かりやすく記述する力を養う。	
	コミュニケーション統計法1	本講義はコミュニケーション専攻の2年生全員を対象にした必修科目である。専攻の専門科目の学習や卒業研究においては、統計的記述の含まれる論文を読む力と、自分で統計資料を整理し、データを分析する力が求められる。本講義では、そのために必要な統計学の基礎を習得する。また、統計分析ソフト「SPSS」を使って自分でデータを扱える力も養う。	
	コミュニケーション統計法2	統計の基礎知識を活用し、自分でデータ分析ができる力を身につけることを目標とする。具体的には、記述統計の基礎的な理解をふまえたうえで、度数分布表、相関散布図、正規分布、クロス表などの記述統計をベースとして、確率論の基礎、母集団と標本・標本抽出法のサンプリングの概念、検定・推定の理論とその応用(平均と比率の差の検定、相関係数の検定、クロス表の独立性の検定など)に加え、分散分析、回帰分析、重回帰分析などの一般的な回帰分析の基礎などを扱う。	
	先端トピック概論 (コミュニケーション) A	本講義では、メディア環境が多様化し、多文化、情報化が進む現代社会において、多文化、メディア、情報デザインと関連するオーソドックスなテーマには収まりきれない、コミュニケーションに関する先端的な研究テーマを扱う。特に、各領域における最新の知見を中心に取り上げ、尚かつ、学際的な、領域横断的な新しい視点を提供することを目指す。コミュニケーションの枠組みを広げ、深めるようなテーマに取り組む。	
	先端トピック概論 (コミュニケーション) B	本講義では、メディア環境が多様化し、多文化、情報化が進む現代社会において、多文化、メディア、情報デザインと関連するオーソドックスなテーマには収まりきれない、コミュニケーションに関する先端的な研究テーマを扱う。特に、これまで通りのオーソドックスなコミュニケーション研究の枠組みにとらわれない、新しい視点を提供することを目指す。例えば、医療、福祉、教育、芸術などコミュニケーション研究の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。	
特殊 講義	思考心理学	「基礎心理学概論」で学んだ認知心理学に関する基本的理解をもとに、高次の認知過程(思考、あるいはその基盤としての言語)を取り上げて解説する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。	年度ごとに交互 に開講
	知覚心理学	知覚は心の入り口であると言われる。本講義では、「基礎心理学概論」で学んだ知覚心理学に関する基本的理解をもとに、知覚心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。視覚、聴覚などの感覚別の知覚情報処理過程について学ぶとともに、感覚モダリティ間の相互作用(多感覚知覚)についても学ぶ。領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。講義内容の理解を深めるために、視聴覚教材やデモンストラーションなどを利用する。	
	生理心理学	「基礎心理学概論」で学んだ生理心理学に関する基本的理解をもとに、心と脳および身体の関わり合いについて研究する生理心理学の主要テーマについて解説する。中枢神経系、自律神経系、内分泌系など、それぞれに異なる研究手法について理解したうえで、研究により明らかになった知見を学ぶ。心と脳の関係、心と身体の関係について理解し、説明する力を身につける。心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。	年度ごとに交互 に開講
	認知心理学	「基礎心理学概論」で学んだ認知心理学に関する理解をもとに、基礎的な認知過程である注意と記憶を取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。認知科学や認知神経科学など、関連諸領域と融合した学際的な内容にも焦点を当てる。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。	
	社会心理学 (個人内過程)	「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、私たちを取り巻く社会や他の人々あるいは、自分について私たちがどのように理解するのかその認知過程を解説する。その認知過程に影響を与えるさまざまな要因についても取り上げる。	年度ごとに交互 に開講

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会心理学 (対人過程)	「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、対人関係に関わる心理や社会的影響過程など、周囲の他者や環境との関わりのなかで生まれる心理について、主要なトピックを取り上げ、解説する。	
	社会心理学 (マクロ・集団)	「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、個人と社会の関係をマイクロ・マクロ関係という視点から捉え、集合行動、社会規範、文化などのマクロ現象を取り上げる。集団・集団過程を取り上げることもある。	年度ごとに交互 に開講
	社会心理学 (応用)	「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、社会心理学の基礎研究に立脚した現実的な問題に焦点を当てた応用的な研究テーマに焦点を当てる。隣接する社会科学の学問において社会心理学研究が応用されている例を取り上げることもある。	
	発達心理学 (情動発達)	「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、情動発達(情動理解の発達、情動制御の発達、共感性の発達、心の理論の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。	
	発達心理学 (社会発達)	「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、社会発達(対人関係の発達、自己の発達、社会性の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。	年度ごとに交互 に開講
	発達心理学 (認知発達)	「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、認知発達(言語発達・概念発達・推論の発達・記憶の発達・論理的思考の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。	年度ごとに交互 に開講
	教育心理学	「発達心理学概論」において学習した子どもの発達および学習の基礎的理解をもとに、教育心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。教育心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めるとともに、教育現場への支援について理解することを目指す。この講義では、学校教育と心理学を中心に解説し、教育心理学の発展的な内容を学習する。	
	家族心理学	「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに家族心理学の歴史と内外の動向を概観し、それらの基本概念および背景となる理論について理解を深める。まず、問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としての家族等に働きかける視点を学ぶ。その上で、家庭・学校・地域・職場等に対して、どのような介入や支援や協働を行うかについて、具体的な事例や視聴覚教材等を通して、家族心理学を実践的に学べるように講義を行う。	
	キャリアと産業組織の心理学	「臨床心理学概論」の講義において学んだ知識を前提に、現代社会における問題への支援や介入に焦点をあて、臨床心理学、精神保健学の知見がどのように活かされているかを学ぶ。本講義では、個人のキャリア発達や産業・組織心理学の視点から現代社会をとらえ、現代に働く人びと、あるいは、働こうとしている人びとの抱える心理的問題(職業選択、仕事への動機づけ、職場におけるストレスやメンタルヘルスなどの中からトピックを選ぶ)について、その実態から支援や介入まで解説する。	年度ごとに交互 に開講
	心理療法論	「臨床心理学概論」での理解をもとにして、心理的援助の基本となる心理療法の方法について深く学ぶ。心理療法の成り立ちを概観した上で、パーソンセンタード・アプローチ、精神分析、認知行動療法を中心に代表的な学派をとりあげ、各理論の歴史と背景、技法と適用範囲等の実際的な問題について論じる。また、心理療法という特殊な対人援助場面における基本的な留意事項、倫理的問題に関しても講義する。	年度ごとに交互

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学校臨床心理学	「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに、学校教育に関係する場に特有の臨床心理学的援助介入について重要テーマをとりあげ、それらを解説する。また、現場で生じている具体的な心理学的問題とその対応について背景にある理論とその実践について学ぶ。スクールカウンセラーをはじめとする専門家による支援の概要、学校および地域で展開する多職種協働による支援、社会からの要請や果たす役割、さらには倫理的問題等についても講義する。	に開講
	精神保健学	精神保健の諸相について全体的に学ぶ。現代における自己や共同体などの変容、現代社会が直面しているさまざまな現象を取り上げ、それらが人の心に与える影響について理解する。とりわけライフサイクル、性差、文化、時代といった切り口から理解を深めることを目標とする。また、人の心が健康であるとはどのようなことか、人の心はどのように破綻し、またどのように回復していくのか、さらに破綻を予防するにはどのようなことが可能であるのか、などといった点について具体的な事例を通して学習する。	年度ごとに交互 に開講
	精神医学	精神病理学、生物学、脳科学などさまざまな領域における最近の成果にふれつつ、発達障害、解離性障害、パーソナリティ障害、気分障害、摂食障害、心的外傷後ストレス障害など、現代に特徴的な病態を精神医学的観点から取り上げる。またストレスやトラウマなどに関する生物学的、精神医学的研究についても広く解説し、人間、生命、社会についての理解を深めることを目標とする。	
	心理学特論	本講義では、「基礎心理学概論」「社会心理学概論」「発達心理学概論」「臨床心理学概論」の講義において学んだ知識を前提に、現代社会において問題となっているテーマに焦点を当てる。あるいは、心理学の先端の知見を取り上げ、新しい視点を提供することを目指す。場合によっては、心理学の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。	
	メディア心理学	私たちは、現代社会の重要な情報源であるメディアとのかかわりにおいて社会を認識し、様々な生活場面における意思決定や価値判断においてメディアの影響を受けている。メディアの発達と情報化が人々の行動と心理に及ぼす影響について、メディア環境の変化とメディア利用状況、ニュースやエンターテインメントなどのメディアコンテンツの利用行動と心理、消費者、生活者、有権者などの様々なオーディエンスとメディア、モバイルとオンライン上のコミュニケーションと情報行動などを中心に講義する。	
	コミュニケーション心理学A	コミュニケーション心理学が扱う領域の中から、特に対人レベルのコミュニケーションと関連するテーマを中心に講義する。例えば、社会的認知とコミュニケーション、経済心理学[行動経済学]と判断・意思決定、非言語コミュニケーション、恋愛の科学などを取り上げる。また、それぞれのトピックに関する調査・実験研究の事例紹介を通じて、コミュニケーション心理学で用いられる主な研究方法に対する理解も深めてもらう。	
	コミュニケーション心理学B	コミュニケーション心理学が扱う領域の中から、特に集合現象と関連するテーマを中心に講義する。例えば、うわさ・流言の心理学、群衆行動と群衆心理、流行現象とメディア、イノベーションの普及過程などを取り上げる。また、それぞれのトピックに関する調査・実験研究の事例紹介を通じて、コミュニケーション心理学で用いられる主な研究方法に対する理解も深めてもらう。	
	メディアとことば	メディアにおける言語情報・言語使用の持つ意味と特徴を考え、様々なメディアを駆使し、ことばで伝える能力を高める。活字メディア、放送メディアなどのマスメディアのニュースや広告など、送り手によって発信される言語情報の内容や形態を分析し、その社会的影響について理解を深める。また、ソーシャルメディアにおいては、ユーザーが自由に発信・共有することで、言語情報が拡散されている。多様化するメディア社会における情報発信の担い手として、様々なメディアのことばに触れて分析し、発信力、表現力を高める文章作成についても学んでいく。	
	メディア社会論	メディア社会論の中からいくつか重要なテーマを選んで講義する。特に、テレビや新聞などのマスメディアあるいはインターネットや携帯電話・スマートフォンなどの新しいメディアが、現代社会においてどのような社会的影響力を持っているのかについて、社会学や社会心理学の視点から詳しく解説していく。また、メディアが伝える情報の内容分析などについても講義する。	
	メディア文化論	テレビやケータイなどのメディアは、今日我々の生活の一部となっている。我々の生活様式や行動様式は、メディアの影響により変容し、アイデンティティはメディアへの接触を通して強化され、集合的記憶もメディアへの接触により構築されている。そのため、メディアは文化的側面への影響を持つと考えられる。この講義では、実証研究や事例などの学習と理論的検討を通して、そうしたメディアの社会的・文化的影響を理解する。同時に、メディアの社会的・文化的影響を、多面的かつ批判的に検討する視点を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	メディア産業論	日本をはじめ世界中のメディア産業が、情報技術の発達によって急速に変化してきている。この講義では、新聞、出版、放送、通信、インターネット、音楽、映画、広告などのメディア産業について、その市場規模、産業構造が情報技術の発達によってどのように変化したかについて理解を深める。また、新聞社のインターネットの活用、音楽コンテンツや放送コンテンツのインターネット配信などにみられるように、情報産業とメディア産業の融合が進んでいる。そうした融合がもたらす、新しいメディア産業のあり方についても検討する。	
	メディア史	文明を発明して以来、人間のコミュニケーションの形態はいくつかの点で重要な変化をとげてきた。本講義では、様々な情報メディアの発展史と現状を概観しながら、人間コミュニケーション、特にメディアを通じたコミュニケーションの変化とその社会的影響について詳しく解説する。具体的には、文字の発明とその社会的影響、印刷術の完成とその社会的影響、新聞メディアの誕生とその社会的影響、映画の登場とその社会的影響、放送メディアの社会的影響と現状などについて取り上げる。	
	ジャーナリズムと現代社会	新聞、テレビ、インターネットを通じて流される政治、経済、災害、紛争・戦争などに関する今日的ニュースを題材に、現代社会においてメディア・ジャーナリズムが果たしている役割を理解し、ジャーナリストの使命と一般市民の「知る権利」の関係について学ぶ。また、ジャーナリズムの発展過程とその過程におけるジャーナリズムの問題(戦争報道、原発報道、虚偽報道など)についても学ぶことで、ニュースを的確に理解し情報を読み解く力、情報を発信する立場になった際に必要な倫理意識を学ぶ。	
	広告と消費者心理	多様化・複雑化するメディア環境と企業環境に注目し、広告・消費・マーケティングの諸問題について理解を深める。広告の社会的、経済的意義を理解し、変化する情報空間・都市空間・消費空間で展開される広告の諸問題について講義する。広告の社会的・経済的意義を理解し、広告が伝える情報とイメージの分析、広告の効果、広告と消費者行動、社会や時代と広告との関わり、社会的・文化的表象としての広告、社会的メッセージとしての広告とその影響、インターネットにおける広告の新しい展開と消費者行動について考える。	
	ジェンダーとメディア	ジェンダーの問題は、ドラマや映画などの映像メディア、ニュース番組や新聞記事などの報道、小説や漫画などの娯楽メディアなどに顕著に表れていることが多い。この授業では、そうしたメディアに表象されるジェンダーを分析・検討する理論について理解を深める。さらに、メディアに描かれるジェンダーを批判的に検討する視点を養う。そうしたことを通じて、自分自身や社会の中にあるジェンダー意識を再考し、メディアにおけるジェンダーがオーディエンスに与える影響について考える。	
	グローバルメディア	伝統的なマスメディア時代においては、外国の情報やメディア・コンテンツへの接触はかなり限定されていたが、衛星放送やインターネットなど、新しいメディアテクノロジーの発達と普及によって、メディア・コンテンツは国を超え、グローバルに利用され、消費されている。本講義では、情報と社会変動の関連を概観し、益々デジタル化、モバイル化が進んでいく情報化社会の特徴とメディアの社会的影響について、グローバルな視点から検討する。	
	デザイン思考 I	情報デザインとデザイン思考、両者に共通する思想である人間中心設計の基本を学ぶ科目である。デザインとは何か、情報デザインとは何か、情報デザインのプロセス、ユーザ調査のための手法(ユーザ調査・インタビュー・フィールドワークなど)、コンセプト化のための手法(コンセプトデザイン・ペルソナ手法・シナリオ手法・発想法など)、視覚化のための手法(構造の視覚化・情報の構造化・アイデアスケッチなど)を、グループワークや実体験を積み重ねながら学ぶ。	
	デザイン思考 II	人間中心設計の考えに立って情報デザインを自分の活動で実践できるようになるために、「デザイン思考I」と合わせて、情報デザイン、デザイン思考、人間中心設計の手法を学ぶ科目である。この科目では特に、プロトタイプを制作して、ユーザや専門家が評価する手法、感性を科学する方法などを、グループワークや実体験を積み重ねながら学ぶ。主観的要素である人の感覚(感性)を評価することで、それ以外の手法とは異なるアプローチで人間を理解することができる。	
	ユニバーサルデザイン (人間中心設計)	情報デザインコースの中軸となる「人間中心設計」の考え方を学ぶ科目である。できるだけ多くの人が利用できるように設計段階で検討するユニバーサルデザインを例にとって、自分たちでデザインを考えて評価する体験を交えてこの分野の考え方を学ぶ。ユーザビリティ(使いやすさ)、アクセシビリティ(障害者や高齢者が使えること)、ユーザ体験(嬉しい利用体験)やこれらの評価手法も経験し、この科目との関連を議論する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ユニバーサルデザイン (心理物理)	ユニバーサルデザインは、より多くの人が効果的に楽に利用できる環境や仕組みを求めるポリシーである。そのポリシーを実効性のあるデザインに結びつけるためには、実証性が求められる。本講義では、実効性のあるデザインにたかめていくデザイン心理的アプローチの中でも、特に心理物理を用いる方法論を講義する。実例をあげ、シミュレーションや実測を折り返しながら体験的に学習ができるよう工夫する。	
	デザイン心理(視覚)	情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV機器やコンテンツのデザインは、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性がAV機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については視覚を中心に扱う。	
	デザイン心理(聴覚)	情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV機器やコンテンツのデザインは、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性がAV機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については聴覚を中心に扱う。	
	ICTリテラシー I	コンピュータの発達と普及が目覚ましい現代社会において、情報システムの基本を学ぶことが重要である。この科目は、情報システムの中でも重要な表計算、リレーショナルデータベース、ネットワークなどを取り上げる。情報システムを扱う職業人として必要なレベルの基礎知識を、実際にコンピュータを操作する機会を提供しながら初心者にもわかりやすいように学習する。この科目を学ぶことにより、ICT分野への就職に役立つ力を養うことができる。	
	ICTリテラシー II	情報システムの基本分野の中からより広く視野を広げて、職業人として必要となる基礎知識を学ぶ科目である。この科目では、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系など、現代社会のICTとその使い方を理解するために重要なテーマを、エントリーレベルの情報処理技術者試験に合格できるレベルで学ぶ。特に現代社会で重要なテーマであるセキュリティと知的財産権に関して詳しく扱う。この科目を学ぶことにより、ICT分野への就職に役立つ力を養うことができる。	
	インターネット・バイ・デザイン I	普段何気なく使っているインターネットであるが、それが人間同士のコミュニケーションや社会に与えている影響は大きく、現代社会にはなくてはならないインフラにまで成長した。本講義では、インターネットが一体どうデザインされているのか、その仕組みを述べ、どのような役割を担っているのかを紹介しながら、インターネットとはどのようなものなのかについて講義する。そこから、インターネットを前提とした社会をデザインしなおす可能性について展望する。	
	インターネット・バイ・デザイン II	今やさまざまな局面でインターネットが利用されている。必要な情報を容易に取得できる利点もあるが、ウイルス被害や個人情報流出といった問題点も存在する。本講義では、社会においてインターネットがどのように利用されているかを見ながら、インターネットに求められていること、インターネットの可能性について考える。特に、社会基盤としてのインターネットに求められている、セキュリティに関する問題や新しいコミュニケーションのデザイン、新しい社会の仕組みの創出について学ぶ。	
	Webデザイン	Webは現代のICT社会の中核をなす技術とメディアになっている。このような背景を念頭に置いて、Web技術 (HTMLとCSS) の基本を取得した学生を対象に、情報アーキテクチャ、Web開発のフレームワーク、モバイルデザインなどを紹介しながら、卒論で使うプロトタイプや外部発表できるようなWeb作品を制作することを目標とする科目である。ユーザビリティとアクセシビリティに配慮したWebの開発と評価についても、実践的体験によって学ぶ。	
	SNSコミュニティデザイン	本科目は、インターネットを用いたコミュニケーションであるソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS) を取り上げる。まず、現在の主流のSNSを中心にその特徴を体系的に学ぶ。またSNSでのコミュニケーション行動、コミュニティを様々な角度から理解する。そして、学校や企業、地域でのSNSの活用例をもとにして、より深くSNSの特徴やコミュニティデザインについて学ぶ。さらに、授業の中でSNSコミュニティデザインの実践を体験し、その評価方法を検討し評価することで、SNSコミュニティデザインの可能性を考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ユーザニーズ分析	開発したいものがあつたとき、それをどのようなものとして開発するかを決定すること、つまり開発したいものに対する要求を分析することは、ものづくりの最初のステップである。このときに行うことは、開発するものに対する関係者(ステークホルダ)をリストアップし、ステークホルダからの要求を引き出す。その要求について、ステークホルダ同士の意見の衝突を調整し、実現可能な形にまとめ、最終的に文書として記述することである。本講義では、まず、適切にユーザ要求の分析がなされることの重要性について学ぶ。そして、ステークホルダの中でも特にユーザからの要求を中心に、各段階で利用できる手法を学習する。	
	コミュニケーションと女性のキャリア	現在、私たちにとってICTの活用は必要不可欠なものになりつつある。このことによって働き方も変化している。本授業では、社会の情報化の進展や情報システムについて理解し、その上で、情報化によってビジネス環境がどのように変化しているのか、企業においてICTがどのように活用されているのかを学ぶ。また、ICTによって労働観がどのように変化したのか、また将来どのように変化していくのかについても議論する。ユニバーサルデザインの視点などに立って、女性の視点での働き方を考える。	
	多文化コミュニケーション	多文化が共生する現代世界において、人は文化に出会う。自文化との接触にはじまり、他の文化との出会い、他の文化と自分の文化を比較することにより、個人の意識や行動パターンは変化していく。ここでは、多様なルートによる異文化接触の具体的な事例を通して、個人が新しい文化や他者との出会いを通してどのように成長し、変化していくかを学ぶ。具体的には「文化とコミュニケーション」に関する研究の流れ、異文化適応・文化人類学・異文化教育・文化心理学などに関する理論について学び、子どもの異文化体験や日本にいる移民の異文化体験など異文化接触の具体例を紹介し、それについての議論・発表などもおこなう。	
	対人コミュニケーション (家族)	人間は、社会的動物である。言いかえれば、人と人との関係を通して自己を形成していく存在である。生まれた直後にはじまる第一養育者との関係と自己理解、さらにそれが対人認知の枠組みを広げていくと考えられる。日常生活における他者とのインタラクションが、他者の認識と自己理解に影響していく。この講義では、発達心理学的視点と社会心理学的視点から、対人関係の基盤となる家族とのコミュニケーションを通しての人間の成長を、生まれてから青年期、老年期まで包括的に検証していく。	
	対人コミュニケーション (社会)	人間は、社会的動物である。人が生活する場は、家庭から社会へと年齢と共に拡大し、またより多くの他者を相手とすることとなる。ここでは、社会、特にビジネス場面でのコミュニケーションの特徴を学び、葛藤場面でのコミュニケーション、相手を説得するためのコミュニケーションについて分析、理解し、その上でWell-beingの高まるコミュニケーションとは何か、を検討していくことを目的とする。	
	対人コミュニケーション (ジェンダー)	対人コミュニケーションの仕方は、話者の属性によって異なる傾向があり、属性差の主要な例としてジェンダーによる違いがあげられる。コミュニケーション行動の特に言語的な部分を中心に、男女差が、言語形式(男ことば、女ことばなど)にとどまらず、言語行動の選択、フェイス保持やボライトネス使用、含意や推論の仕方など、語用論的行動の多岐にわたること、そしてそれが異性間コミュニケーションに影響を及ぼし得ることを、日米の調査研究をもとに議論する。また、行動の違いと社会的に期待されるジェンダー像との関わりについても考察する。	
	ダイバーシティとコミュニケーション	ダイバーシティとは人間の多様性を表すことばである。国籍、人種や男女といった違いだけでなく、機能的損傷などによるコミュニケーションの相違も含まれる。コミュニケーションの違いを通して、障害を持つことを理解し、違いをこえたコミュニケーションの方略を体得する。この講義では、社会の中でのダイバーシティを理解し、その上でコミュニケーション障害をもつ人をインクルージョンしていく方法について、様々な方策を検討、議論していく。	
	文化心理学(文化と自己)	異文化に出会うことは、言葉や社会システム、習慣の違いに驚くことでもある。そのような違いは、行動ばかりでなく心理プロセスにも表される。本講義では、心の社会的構造に着目する文化心理学を学ぶ。基本的概念である、文化的自己観と相互構成過程について実証研究から検証していく。特に、東洋で優勢な相互協調的自己観と西洋で優勢な相互独立的自己観に基づく心の違いをながめながら、文化に生きる人を理解することが目標である。 This course reviews the field of cultural psychology. Cultural psychology is centered on several overarching questions such as: Do people in different cultures think, feel, and act differently? How can we begin to understand the cultural variation in psychological processes, and what are the origins of this variation? In the last decade a number of psychologists have used empirical methods of psychology to address these questions. This course reviews and critically examines this literature. A main focus will be on some Asian countries and cultures, but we will cover different ethnic groups within the United States.	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化心理学(文化と認知)	日常生活の中で、ふつうに考え、感じ、行動しながら、“心”は作られていく。本講義では、心の社会的構造に着目し、心と文化について実証研究から検討する。近年の文化心理学的研究の中では、自動処理過程やオンライン過程といった、認知実験研究の文化差が展開されている。西洋では、文化的認知様式として分析的思考が、東洋では、包括的思考がそれぞれ優位となっていることが指摘されてきている。最新の知見を学びながら、文化の中での“心”について理解することを目標とする。	
	文化心理学(グローバル社会)	多文化に出会う現代社会の中では、共生よりもその違いに関心が集まり、それが摩擦を生んでいくことになる。この講義では、こうした多文化社会における地域、ジェンダー、人種、経済性、社会階級における対立の様子を理解し、それらを生むプロセスについて心理学的に分析し、理解した上で、多文化共生を導くアイデアについて、発表、議論していく。	
	多文化教育	日本、また多くの国々で、多様な文化の人々が共によりよく生きることのできる社会をめざす多文化共生が、課題となっている。本講義では、多文化主義、多文化教育とは何か、多文化主義・多文化教育はどのように発展し、どう受けとめられてきたのか、多文化共生社会の担い手としてふさわしい基礎知識を身につける。そして、文化の違う者同士が互いに適応し、自分たちが住む社会を共に作っていくために必要なことは何かを考える。	
	日本語教育研究概論Ⅰ	日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。「日本語教育のための教員養成について」(文化庁、2000)に示された教育内容を踏まえ、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5領域から日本語教育の対象、環境、内容、方法等について考察する。	
	日本語教育研究概論Ⅱ	日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。多様な日本語学習者の個々について理解するための観点、学習支援の基本である日本語説明能力、日本語教育能力、教室活動を中心に、日本語教師として必要となる知識・能力に重点をおいて考察する。	
	日本語教育研究Ⅰ	日本語教育について、社会的行為としての言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面からみることにより、言語教育を動的に捉える力を養う。この講義では、社会的視点を中心に取り上げ、外国語としての日本語教育(JFL)と第二言語としての日本語教育(JSL)の相違、各国の言語政策や言語教育政策と日本語教育の目標設定の関係を理解することによって、教室での実践事例を広く社会的文脈から分析的に捉える、また、コミュニケーション能力、社会文化能力など日本語教育が育成すべき能力について、諸理論を踏まえて考察する。	
	日本語教育研究Ⅱ	日本語教育について、社会的行為としての言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面からみることにより、言語教育を動的に捉える力を養う。この講義では、学習者の認知や学習行動など、個々の言語習得における多様性や個別性について、認知心理学や教育心理学、異文化間教育学など、関連諸領域の研究にも触れつつ学んでいく。諸理論の日本語教育への応用事例を学ぶことによって、4年次の「日本語教育実習」につながる準備とする。	
	多文化コミュニケーション・デザイン	日本、また多くの国々で多文化化が進む中、社会には様々な複雑な問題が存在している。社会生活に深くかかわる問題の解決には、利害や立場の異なる人々、文化的背景や言語的背景、アイデンティティが異なる人々が当事者として話し合い、協働することが大切である。そのために、人と人、人とモノとのあいだのコミュニケーションをデザインするという視点からのアプローチが求められている。本講義においては、コミュニケーションデザインに関する基礎知識を身につけた上で、実践力を養うために、ファシリテーションに関する基礎知識と基礎実践力を得ることを目標とする。	
	ことばと文化	言語の体系(語彙体系など)は、その言語が用いられる社会の文化や習慣と深く関係している。また、表現様式やコミュニケーション・パターンは、社会的な価値観や対人関係のありよう、行動基準となる発想(いわゆる「ものの考え方」)の影響を色濃く受けている。ここでは、言語使用や言語表現のさまざまな事例をもとに、言語とその母語話者の文化的発想との相互関係について学び、異なる言語間に見られる共通性と個別性についても考察する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	言語コミュニケーション能力の発達	文法的に正しい文を生成する力、目的や場面状況に合わせて適切に談話や文章を構成する力、言語能力の不足やコミュニケーションに問題が生じたときにそれを修復するストラテジー能力など、言語を使用してコミュニケーションを円滑に進める際に必要とされる能力について、主だったモデルを学び、実際のコミュニケーション経験の内省や、第二言語でのコミュニケーションの事例などの考察等を通して、理解を深める。また、言語コミュニケーション能力の発達と認知や情動、社会性等、人間の諸側面の発達との関係を考察していく。	
	言語の多様性と普遍性A	日本語・英語・その他の音声言語や手話言語には、非常に異なって見える現象の背後に共通のシステムを見出すことがある。そのような発見を通して、自然言語において基本要素を組み合わせて複雑な表現を作るしくみや、子どもが周囲の会話を手がかりに母語を獲得する上で必要となる生物学的な基盤と環境との関わりを考える思考法を身につける。履修者の多くにとって、自覚する間もなく習得した日本語、学ぶべき外国語とされている英語を、他の言語と並べて分析する体験を通して、自分が持つ枠組みを相対化して見る姿勢を身につける。	
	言語の多様性と普遍性B	世界の言語には、語や形態素の組合せ方、格表示や一致現象の有無、語順やアクセント、省略の可否など様々な違いが見られる一方、全く親族関係のない言語間に同じ規則性が観察されることもある。20世紀後半以降の言語研究は、個別言語の記述的妥当性を超え、世界の言語の多様性と普遍性に注目してその原因を追求している。このような言語研究の例に出会い、科学的思考を支える考え方を学ぶとともに、言語を通して人間を理解しようとする人間の営みを体験する。	
	第二言語習得基礎論A	本講義では第二言語習得に関する主要な理論や仮説を概観しながら、学習者に共通した第二言語習得の一般的なメカニズムについて理論的に解説する。これらの基礎的な知識の理解をもとに、第二言語学習や第二言語教育の現状を分析する能力を高める活動を実施する。さらに、この分析能力を活用して、第二言語習得の一般的なメカニズムの観点から、第二言語学習のさらなる効率化や既存の第二言語教育の改善のための考察ができるようになることを目指す。	
	第二言語習得基礎論B	第二言語習得には、学習者に共通した一般的なメカニズムと共に学習者ごとに異なる個人差を引き起こすメカニズムがある。本講義では、後者のメカニズムに関連するさまざまな要因を概観しながら、第二言語習得に見られる個人差について理論的に詳説する。これらの知識の理解を踏まえ、各種の事例を使って第二言語学習や第二言語教育の現状を分析する能力を養う。最終的には、第二言語習得の個人差を引き起こすメカニズムの観点から、第二言語学習の効率化や第二言語教育の改善のための方法が提案できるようになることを目指す。	
	社会言語学A	社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の地理的変異に着目し、貴重な言語資料である全国に広がる様々な語の分布から、ことばの生成・発展・衰滅のプロセスをたどっていく。小方言から中核方言への統合現象や衰退する伝統方言に代わる新しい方言の発生・浸透などの実態もふまえ、共通語との接触による方言の変容、それに伴う方言の運用や意識の問題についても考えていく。	
	社会言語学B	社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の変種を年齢差、性差、場面差などの多角的な視点からとらえ、表現形式や談話構造のパラエティを探っていく。ことばの規範、アイデンティティとことばとの関係を言語意識の側面からとらえ、コードスイッチング、コミュニケーションストラテジー、敬語選択などの言語運用に具現されていく状況を、背後で作用している様々な社会文化的要因を視野に入れながら考えていく。	
	日本語学(表記・語彙)A	我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。特に現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるように導く。本講義では、表記・語彙の分野のトピックを中心に扱う。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。	
	日本語学(表記・語彙)B	我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、表記・語彙の分野のトピックを中心に扱う。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語学（文法・談話）A	我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法・談話の分野のトピックを扱う。文-文法のみでなく、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。	
	日本語学（文法・談話）B	我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法・談話の分野のトピックを扱う。文-文法のみでなく、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。	
基 盤 演 習	1年次演習（心理学）	心理学の導入教育としての位置づけで、入門的な内容のテーマで演習を行う。具体的にはこれから4年間に渡る学びの基礎となるアカデミックスキル、例えば、文献を探したり講読したりといった図書館の利用、資料を調べてレジュメを作る技能、プレゼンテーションや意見交換を行うスキル、論理的思考力などの全般的な習得を目指す。少人数による緻密な演習を展開する。	
	2年次演習（心理学）A	「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、また、少人数という場を活用した発表と討論・質疑応答などを行う。論理的思考力や発表時の表現力を養うとともに、取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指す。	
	2年次演習（心理学）B	「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指すことはもちろん、より進んだ「3年次演習（心理学）」で必要となるスキルを身につけることも目標とする。一部の演習で英語による授業をおこなう。	
	心理学実験入門	初めて心理学に触れることになる1年次の学生が、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解することを目指す。人のこころに対して実証的にアプローチするという意味を解説し、こころを測定するということが何か、その長所と限界について考える。特に本講義では、実験法と質問紙法に焦点を当て、初歩的な実験や尺度構成を体験し、それらを通じて心理学の研究方法について基礎的な理解を目指す。	
	1年次演習（コミュニケーション）	学生は「1年次演習（コミュニケーション）」で、演習という授業形式に初めて参加する。演習では、教員だけでなく、受講生も主体的に、授業の内容を構成していく。高校までの、どちらかというと無批判的な吸収一方の学習スタイルから、批判的で主体的・探索的な学習スタイルへ変わる訓練をする。本演習では、コミュニケーション学への入り口として、適切な文献・資料・情報の検索方法を身につけ、関連文献や資料を読み、内容を吟味し、発表し、討論する。主体的学習の方法を学ぶ過程で、自分の意見をまとめ、レポートを執筆し、プレゼンテーション能力も養う。	
	2年次演習（コミュニケーション）	「2年次演習（コミュニケーション）」では、コミュニケーション学について「1年次演習（コミュニケーション）」よりも深い学習と議論ができるようにする。そこで2つの工夫をしている。一つは、コミュニケーションのさまざまな分野に視野を広げる目的で、「2年次演習（コミュニケーション）」では学生に少し自分の中心的な関心分野を離れて他の分野について勉強することを奨励する。もう一つは、研究や学習のために必要となった際、困らないように、コミュニケーションに関する英語の文献を教材にするという工夫である。研究分野についての視野とともに、海外での研究にまで視野を広げることができる。学術的な文献を読解し、要約したうえで論旨を発表しディスカッションする能力を身につける。	
	コミュニケーション研究法入門	コミュニケーション研究は学際的であり、社会学や心理学などさまざまな学問分野で発達してきた多様な研究方法が用いられている。本講義ではその中で最も重要な5つ（質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析）の研究方法を、講義と実習を交えて学んでいく。また、「コミュニケーション統計法1」を前提に、基本的なデータ分析方法も学ぶ。この授業を通して、各自の興味に合わせて、どのような方法が可能であるかを知り、3年次に選択する上級コースの「コミュニケーション研究法実習」、「社会調査法実習」、「多変量解析」につなげ、さらには卒業研究へと結びつけていく。週2コマの授業。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アプリ作成入門	前提知識のない初心者でも、プログラミングの基本と楽しさを学ぶことができる演習科目である。GUIプログラム開発環境を用いて、プログラミングに触れたことがない初心者でも文法エラーなどに悩まされることなく、プログラムを制作する。アルゴリズムとデータ構造の初歩、フローチャート、関数、テストの方法を、講師や受講生仲間と協力して、ゲームを制作して発表する過程を楽しみながら学ぶ。	
	Webプログラミング I	初心者でも開発しやすいプラットフォームなどを利用して、JavaScriptを用いた簡単なプログラミングを制作できるようになる演習科目である。自分でコードを書く練習をしながら、分岐と反復を含んだ基本的なアルゴリズムのパターンと基本的なデータ構造を理解する。また、テストの仕方やデバッグの方法も学ぶ。JavaScriptを用いたWebプログラミングで必要となるWeb技術であるHTMLとCSSの基本も理解する。	
	Webプログラミング II	「WebプログラミングI」と合わせて、自分が必要とするWebプログラミングを制作できるようになる演習科目である。オブジェクト指向言語としてのJavaScriptの文法を理解することを目指す。JavaScriptを使って、論理的な思考やアルゴリズム考案が身につくような例題を演習する。実践的な課題や練習を多く経験して技術を習得する。自作のプログラムが動く楽しさを体験し、Web技術の資格試験合格にも挑戦してもらいたい。	
	オーラルコミュニケーションスキルズ	コミュニケーションスキルとは、ことばの熟達だけでなく、伝える相手の立場や特徴といった背景の理解、分かりやすい資料の作成、相手の心情に訴える表現、発表技能の習得といった、総合的な力を意味する。ここでは、印象的なスピーチ、インパクトのあるプレゼンテーションの分析を通して、その長所を理解する。実践的なコミュニケーション能力を養っていく演習を行う。	
	言語情報処理 I	日本語(一般に言語)表現をコンピュータで扱う技能や、データマイニングについて、その基礎となる考え方を学んでゆく。実際にコンピュータに向かいつつ、基礎的な技術を取得することをめざす。更には、授業時間外の実習によって、より深い理解をはかる。プログラミング言語(PerlやPython等)によるプログラミングや、既存のツール(KHCoder等)による実習を伴う。	
	言語情報処理 II	日本語(一般に言語)表現をコンピュータで扱う技能とともに、その基礎となる考え方を学んでゆく。実際にコンピュータに向かいつつ、その応用的な技術・考え方を取得することをめざす。更に授業時間外の実習によって、深い理解をはかる。言語表現・情報をコンピュータによって処理する方法を総合的に把握するとともに、先人が見出してきたものを習得するだけでなく、コンピュータの活用の可能性を自ら探る態度を身につけることを目標とする。	
発展 演習	3年次演習(心理学)	「1年次演習(心理学)」および「2年次演習(心理学)A・B」を踏まえ、この授業では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。それぞれの分野の発展的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた発展的な内容について深く理解することを目指すことはもちろん、卒業論文研究に主体的に取り組むことができるよう準備をすすめ、自立した学習者となることを目標とする。	
	4年次演習(心理学) A	4年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として研究の前段階に必要な技能、例えば、文献の検索、文献の批判的な講読、先行研究を踏まえた研究の立案、予備実験や予備調査の実施、などを学ぶ。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。	
	4年次演習(心理学) B	4年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として、データの分析、統計解析や検定の実施、得られた結果の表示と解釈、先行研究なども踏まえた考察、論文執筆の技法、などを学ぶ。また、研究発表と質的応答のための力を習得する。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。	
	心理学特殊演習(先端)	本演習では、入門、基盤講義、基盤演習のさまざまな授業において学んだ基礎的な知識を前提に、「2年次演習(心理学)A・B」で取り上げる4つの分野(基礎心理学・社会心理学・発達心理学・臨床心理学)のオーソドックスな内容を越えた先端的なトピックや、隣接領域との接点にあるトピックなどを取り上げる。また、上記演習では扱っていない、統計技法、実験技法などを取り上げることもある。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学特殊演習(応用)	本演習では、入門、基盤講義、基盤演習のさまざまな授業において学んだ基礎的な知識を前提に、「2年次演習(心理学)A・B」で取り上げる4つの分野(基礎心理学・社会心理学・発達心理学・臨床心理学)のオーソドックスな内容を越えた応用的なトピックや、現代社会における諸問題に対して心理学が貢献しうる課題について取り上げる。また、応用的な研究手法や質的分析法などを取り上げることもある。	
	3年次演習(コミュニケーション) I	「3年次演習(コミュニケーション)」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習(コミュニケーション)」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では文献研究によって問題意識を深めつつ、自分の関心に合ったテーマを探していくことが中心となる。	
	3年次演習(コミュニケーション) II	「3年次演習(コミュニケーション)」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしなが、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習(コミュニケーション)」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では「3年次演習(コミュニケーション)」よりも具体的に研究を遂行するために必要な方法や概念について議論を深め、4年次に行う卒業研究の準備を行う。	
	4年次演習(コミュニケーション) I	「4年次演習(コミュニケーション)」では、個々の学生の卒業研究と連動させなが、演習が行われる。卒業研究とは、より専門的な知識をもとに、各自のテーマに沿った先行研究のレビューや研究の問題意識の明確化、仮説の設定、実証データの収集、分析、結果の考察、論文執筆にいたる一連の課程である。それらを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。	
	4年次演習(コミュニケーション) II	「4年次演習(コミュニケーション)」では、個々の学生の卒業研究と連動させなが、演習が行われる。「4年次演習(コミュニケーション) II」の期間に、実証データの収集の後、分析、結果の考察、論文執筆、繰り返し加筆修正を行うという一連の過程が行われる。これらを担当教員の支援を受けなが、遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。学術論文の論理的構成と型式を理解し、研究成果をまとめ、説得的にプレゼンテーションする表現技法も身につける。	
	コミュニケーション研究法実習(実験法)	人間のコミュニケーションを実証的に研究する上で、仮説を検証するためには最も強力とも言える研究方法である、実験法について実習を通して学ぶ。人間を実験対象(被験者)にする実験のパイオニアである、心理学の領域において蓄積されてきた実験の手法を、研究目的の設定、検証可能な操作的仮説への落としこみ、実験計画の立案、実施、データの整理、統計分析、考察と結論、報告書の作成まで全手順を複数回体験しながら、分析方法について、単純な差の検定から分散分析、多重比較、重回帰分析、因子分析を実験方法と対にして学ぶ。	
	コミュニケーション研究法実習(内容分析)	量的内容分析の方法とそれによって得られたデータの解析方法について、実習を交えて解説する。内容分析とは何か、内容分析にできることとできないこと、内容分析の一般的手続き(サンプルの選び方、コーディングシートの作り方・作成上の注意事項、データの集計方法、データの分析方法、結果のまとめ方)などを、質問紙調査との比較を通じなが、詳しく学んでいく。内容分析の基本的な解析方法として、単純集計、クロス集計、 χ^2 検定、相関係数、t検定などを学ぶ。	
	コミュニケーション研究法実習(質的研究)	さまざまな質的データの収集方法(インタビュー＝構造化面接・焦点面接または半構造化面接・非構造化面接、観察、参与観察など)や分析方法について解説する。データを整理、分析し、まとめる作業を行う。テープ起こし、写真等の映像データを、正確に整理し、調査テーマに則して分析する。既存の調査データや先行研究などを活用し、各自の関心を生かしたフィールドワークも織り込みなが、卒業論文で実際にこれらの方法を応用した調査研究を行うことができるよう、事例研究、観察、参与観察などの手法を習得する。	
	社会調査法実習(質問紙調査) I	この授業では、社会調査に関する講義を通して、社会調査の目的と方法について理解する。そうした知識を踏まえ、先行研究の整理、調査の企画、調査仮説の構築、質問紙の作成、サンプリングなどの実査の準備、データ入力のココーディングを、グループを単位とした実習活動によって体得する。さらに、調査の実施に関わるスキル、すなわち調査協力者への協力依頼、調査趣旨の説明、同意の取得、質問紙の配布と回収についても実習を通じて体得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会調査法実習 (質問紙調査) II	この授業では、量的なデータを扱う社会調査においてなぜデータの統計分析が必要であるのか、そのためにはどのようなスキルが必要であるか、調査結果を報告書にまとめる際に必要となる形式的な決まり事についての知識を講義を通して学ぶ。また、実習を通して、データ入力とデータ・クリーニングのスキル、総計ソフトSPSSを用いてのデータの加工と分析に必要なスキルを実習を通して体得する。さらに、グループ単位で調査結果を報告書にまとめる。	
	多変量解析	この実習では、重回帰分析を中心に多変量解析を用いた調査データの分析法を学ぶ。最初に基本的な分析方法(クロス集計、カイ二乗検定、相関係数、t検定、一元配置分散分析など)の復習や調整変数、媒介変数などの解説をしたのち、重回帰分析、パス解析、ロジスティック回帰分析、二元配置分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などを取り上げる。それぞれの分析方法の基本的な解説を加えながら、SPSSを用いて実際に調査データを分析しながら、主要な多変量解析法の習得を目指す。	
実 験 ・ 実 習	心理検査実習 I	心理学において用いられる代表的な心理アセスメントの理論や基本的な技法について学ぶ。具体的には観察法、面接法、投影法、性格検査法をとりあげ、それぞれの技法の理論とアセスメントの具体的方法、解釈のプロセスへの理解を深める。また、観察者、面接者、検査者役とともに、観察対象、被面接者、検査の被験者になるといった体験を通して、自分の心と他者の心への関心を深め、心の多様性について理解を深め、「心理検査実習 II」で必要となる知識とスキルを身につけることを目標とする。	
	心理検査実習 II	知能検査・神経心理学的検査について、実際にロールプレイをしながら施行し、各検査の特徴や実施・整理法における留意点を体験的に理解する。また、「心理検査実習 I」の内容をふまえて、質問紙法、描画法、投映法を用いた心理アセスメントについて、総合的な所見の作成をおこない、実際の具体的な支援に結びつく記述やフィードバックのしかたを身につけることを目標とする。また、アセスメント過程における倫理的な諸問題についての理解を深める。	
	心理学実験演習 I A	心理学の基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法のうち、本実験演習では、特に実験法、観察法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。 (オムニバス方式 / 全15回) (290 山本寿子 / 7回) (実験法) 心理学における実験法の基礎を学ぶ。主に知覚心理学、認知心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。分析、報告書のまとめにあたっては「心理学統計法1」の学習内容を踏まえて、具体的なデータを用いてデータの整理と記述の仕方を習得する。 (17 平林秀美 / 7回) (観察法) 心理学における観察法の基礎を学ぶ。さまざまな事態や形態の観察法があることを学んだ上で、DVD等を利用して観察を実施し、記録の仕方・データのまとめ方についての実験演習を行う。観察法を実施する際の留意点や観察の信頼性についても学習する。 (17 平林秀美、290 山本寿子 / 1回) (共同) 「心理学実験演習IA」のガイダンスを行い、心理学実験の進め方やレポートの書き方について学習する。また、心理学研究を遂行する際に必要な研究倫理に関する知識も習得する。	オムニバス方式・ 共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学実験演習 I B	<p>基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法のうち、本実験演習では、特に実験法と質問紙調査法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。</p> <p>実験法については、「心理学実験入門」および「心理学実験演習IA」に続き、実験法の基礎を学ぶ。主に認知心理学、社会心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。質問紙法については、質問紙調査法の基礎を学ぶ。本実験演習全体を通じ、具体的なデータを用い、「心理学統計法1・2」の学習内容を踏まえて、データの整理、分析と記述の仕方、報告書のまとめかたを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全30回) (290 山本寿子／10回) (記憶実験法／4回) 記憶に関する実験を実施し、実験者側と参加者側の双方を体験することで、刺激や条件の統制、教示の技法について理解を深める。 (認知実験法／4回) 比較的基礎的な認知機能に関する実験を実施し、実験者側と参加者側の双方を体験することで、刺激や条件の統制、教示の技法について理解を深める。 (高次認知実験法／2回) 高次認知に関する実験を実施し、実験者側と参加者側の双方を体験することで、刺激や条件の統制、教示の技法について理解を深める。</p> <p>(217 津村健太／10回) (社会心理学実験／10回) 社会心理学の実験を実施し、実験者、実験参加者の双方の役割を体験することで、独立変数の操作、状況の統制、教示の技法を学ぶ。複数の実験を実施し、従属変数の測定方法の理解を深める。</p> <p>(274 宮崎弦太／10回) (質問紙法) 既存の心理尺度、作成した質問項目を用いた実査、初歩的な分析の作業を通じ、質問紙調査法の基礎的技法を習得する。</p>	オムニバス方式
	心理学実験演習 II (実験法)	「心理学実験演習 I A・I B」および「心理学統計法1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法を習得する。小グループに分かれ、それぞれ実験を計画し、実験者として、また実験参加者として実験を体験し、その技法を理解する。実験実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。データ分析に必要な統計処理についても学習する。これらによって、実験法を用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。	
	心理学実験演習 II (調査法)	「心理学実験演習 I A・I B」および「心理学統計法1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法の習得を目指す。本実験演習では、調査法を取り上げる。グループに分かれて、調査計画を立て、調査を実施し、収集したデータを分析して、レポートにまとめるという過程を通して、その技法を習得する。また、調査実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。これらによって、調査法を用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。	
	心理学実験演習 II (質的アプローチ)	「心理学実験演習 I A・I B」および「心理学統計法1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法のひとつである質的アプローチの習得を目指す。分析においては自由記述やプロトコルという質的データの分析のための理論と方法を具体的に学ぶ(たとえばKJ法やGTAなど)。データ収集にあたっての倫理的配慮や、ガイドの作成、分析の方法、結果考察のしかたを小グループによる実習を通じて学ぶ。これらによって、質的アプローチを用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。	
	心理学実験演習 III (実験法)	「心理学実験演習 II」および「生理心理学」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、生理心理学に関する実践的研究技法を習得する。小グループに分かれ、それぞれ実験を準備し、実験者として、また実験参加者として実験を体験し、その技法を理解する。実験実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。データ分析に必要な統計処理についても学習する。	
	心理学特殊実験演習	「心理学実験演習 II」の次の段階であり、「4年次演習(心理学)」や卒業論文研究への準備段階として位置づけられている実験演習である。学生は、自分の卒業論文研究のテーマと内容を想定して、実験演習の内容を自分で選択する。心理学の領域ごとの必要性に応じて、卒業論文研究への前提として必要となる専門的な知識や技能の習得を目指す。具体的には、文献の検索、専門的な文献の講読、実験や調査等の研究計画の立案、研究の実施、データ分析と考察、プレゼンテーションやレポート執筆、などである。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本語教育実習	日本語学習支援を行うために必要な「事前準備」「実践」「振り返り(実践に関する評価)」という教育の全体を体験する。 授業ではコースデザイン、授業の設計、教材作成、評価など実践のための重要なポイントの理解と整理を行い、また実践で得た知見や疑問等についてのフィードバックを行う。さらに、実践の評価・改善のために、各自が実践の目標とその評価の観点・方法の設定、評価のためのデータ収集と記録という各ステップを踏んで、振り返りを行う。そのうえで、実習報告会での口頭発表と報告書作成を通して、実践とその振り返りを全員で共有し、経験と得られた知見の共有と、理解の深化を図る。	2名の教員が共同で担当。 講義 36時間 実習 48時間
卒業論文	卒業論文	学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。	
総合 教養 科目	(女性の生きる力)		
	女性学・ジェンダーを学ぶ	近代化を推進してきた男性中心のパラダイムや価値観を、ジェンダーの視点から問い直した「女性学」。その成立の過程や基本概念について学びながら、体系的な理論構造を明らかにする。またそのなかで、女性学が提示した「ジェンダー」(社会的・文化的性差)の概念を軸として、性別を問わず個人としての尊厳が重んじられる男女共同参画社会のあり方について、男性学にも留意しながら考察していく。	
	女性とジェンダーの歴史	女性とジェンダーの歴史をとらえて、これまで女性の中でどのような位置を占めていたかを、日本を含む世界的な視野から把握する。とりわけ、現在までの歴史を通じた女性の変化を、教育・労働・政治・生活・文化等の側面から考察していく。また、女性表象を考える意味で、ヴィジュアルな資料も積極的に利用する。さらに「ジェンダー」の視点を導入しながら、既存の歴史全体をとらえ直し、女性をめぐるさまざまな問題事象について考えていく。	
	キャリアデザインを描く	人生においてどのようなキャリアを築くかは、ライフコースの選択と密接にかかわり、またライフコースの選択はジェンダーと直結している。個人のなかでキャリアとジェンダーは不可分であり、いずれかだけを考えて生きていくことはできない。この授業では、改正男女雇用機会均等法施行後の女性労働の現状、高学歴女性の職業意識やキャリアパターン、企業における女性のキャリア形成、仕事と家庭の両立支援などの問題をとりあげ、女性が生涯にわたって発展的なキャリアをたどるためのシナリオを考える。	
	政治とジェンダー	少子高齢社会における子育て支援、高齢者介護、障害者の自立支援をはじめとして、人々の共同性や共生にかかわる問題がクローズアップされるなか、女性の政治参加は重要な問題となっている。地域政治、国内政治、国際政治の各レベルにおいて、社会貢献をめざすNPOや市民グループといったテーマ・コミュニティが活性化するなど、政治コミュニティのあり方も多様化しつつある。人間性を回復し、自律型の社会をつくる政治参加の基盤形成を念頭におき、従来の固定的な性別役割分担を超えた市民の役割、ガバナンスやアドボカシーなどについてジェンダーの視点から多角的に考察していく。	
	国際協力とジェンダー	国際協力とはさまざまなアクターが交錯する試行錯誤のプロセスである。例えば、初期の開発援助は現地の社会構造(階級・階層、ジェンダー、エスニシティ)に踏み込もうとしなかった。この授業では、経済開発や紛争及び紛争後の平和構築・復興開発の過程で発生するジェンダーによる差別、格差、暴力の実態を明らかにしながら、それら「直接的暴力」及び「構造的暴力」と格闘する人々の存在を知り、そうした人々と共に歩む国際協力のあり方を考える。	
	国際社会と女性の人権	世界の女性を取り巻く問題とそれに対する国際社会および国際法による取り組みについて学ぶ。また、それらをジェンダーの視点から分析することにより、私たちの目から見えにくくなっている問題の根源を探る。具体的には国家主権、人権、開発、環境などの争点において、国内社会ほどには制度化が進んでいない国際社会の実情を理解し、国際社会における法の役割を学ぶと同時に、世界では女性の直面する問題が、どのように女性の人権とかわっているのかについて理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代の家族とジェンダー	家族という人間の営み、家族関係にまつわる心理は社会・文化的に規定されるものである。夫婦関係や親子関係など、現代家族の人間関係の中で人が何を感じながら生きているのか、ジェンダーを切り口として概観することによって、人間にとって家族とはどのような意味をもつのか、現代の社会に適応的な家族の姿とはどのようなものかを考えていく。授業の内容を自分自身の経験や将来展望に照らしながら、自らの家族体験を相対化する視点を獲得してほしい。	
	女性のウェルビーイング	現代社会の急激な変化によって、人々は生涯にわたって様々なストレスに晒される。この講義では、女性がストレスにどう対処し、それをどう成長の糧にするかについて、精神保健学の観点から学習する。人の誕生から死に至るまでのライフサイクルにおいて、節目節目で遭遇する精神医学的・心理的・社会的課題についてジェンダーの視点から概観し、それらを乗り越える知恵や経験やスキルを精神保健学から学び、この学習がその人らしいライフサイクルを送るための契機になるような講義を行う。	
	女性と福祉	現代女性がライフステージの各段階で直面する福祉関連の問題を抽出し、その解決のために必要となる制度や支援のありようを考える。児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、あるいは失業や生活保護といった主要な福祉の問題に対峙するときに現在どのような解決の経路があるのか。どのような困難や制約と女性は向かい合うことになるのか。あるいは支援者の立場から、福祉の問題と関わるとき、どのような知識が必要なのか。これらについて具体的な問題を例として取り上げ、考察する。これまでの「福祉の女性化」をジェンダーの視点から批判的に問い直し、ケアや仕事をめぐる諸個人の幸福追求にとって、ジェンダーの主流化（ないし男女協業）が重要であることを理解する。	
	女性と表現	文芸や音楽、絵画、映像、舞踊、演劇さらに服飾、建築、空間デザインなどさまざまな分野において女性の進出が拡大し、表現者として活躍している。しかし、いまだ職名に女流・女性という文言が付されることも珍しくなく、芸術表現の歴史に女性の名を見ることはごくまれであるように、芸術表現にもジェンダーの問題が潜んでいる。現代の社会・文化を生きる者としての問いやメッセージをさまざまな形で表現する女性たちの活動に着目し、芸術表現生成の社会的・心理的背景など多様な表現に織り込まれた「ジェンダー」の諸相について、考察していく。	
	総合教養演習（女性の生きる力）	総合教養科目「女性の生きる力」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「女性の生きる力」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
(人間と自然科学)			
	自然科学のあゆみ	古代から近代に至るまでの自然科学の歩みを辿る。古代ギリシャの科学者や哲学者の自然界の捉え方から始まり、中世に於ける神秘的な科学や、西洋と東洋の自然観の比較などをとりあげる。近代に入り、ルネッサンス時代に育成された自然現象と科学と芸術の調和的な考え方に注目する。また、19世紀に活躍した女性科学者達の生涯について、その苦悩と功績や、人生観を紹介する。全体を通じて、科学者達の間人像を浮き彫りにしながら、自然現象とそれを理解しようとする人間の姿勢について解き明かしてゆく。	
	現代の科学と技術	20世紀の科学と技術の発展を顧みて、21世紀に人類が進むべき方向について考える。科学と技術を土台とする経済・社会システムの姿を見つめ直し、真に心ゆたかな人間生活と、健全な自然環境の持続について議論する。人間による科学の追究とは何か、技術がもたらす効用とは何かを問う。また、医薬品や化粧品などに代表される人工的物質、利便性を追求するハードウェア、そして地球環境問題の原因と対策などについて、それらに関する最新の科学的発見や新技術を紹介しながら、人類社会と自然界の将来を展望する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	くらしの中の物質	人間生活の全てに関係するさまざまな物質の正体と、それらの意義や影響について理解を深め、これからの物質社会を考える。文明の歴史は新物質の発見、発明とその利用である。次々と新しい機能をもつ物質から造られる製品が開発されて、経済と社会を動かす状況や、日常生活への影響を把握する。食料、衛生、医療、自動車、航空、建物、家電品、パソコン、携帯電話、服飾、化粧品などに使われている物質について科学的に理解する。また、環境・エネルギー問題と物質リサイクル、天然物や再生可能な物質の利用などの新しい流れも視野に入れながら、21世紀の人類社会の姿を考える。	
	エネルギーと人類	エネルギーに関する諸問題を解決することは、人類につきつけられた最も重要な課題のひとつである。この問題の本質的解決は、技術革新や政策よりも、人類としての価値観の問題・生き方の選択の問題が鍵を握っていると言える。エネルギー資源に関する各論のみならず、地球史、人類史を辿る中で、人間社会のあるべき姿を模索することを目指す。更には、余裕があれば宇宙における暗黒エネルギーといった壮大な話題にも目を向けたい。	
	宇宙の科学	太陽は中心部の核融合反応によって輝き、それが地上のエネルギーの起源であることを紹介する。また、我々の属する太陽系の概観と、その形成のシナリオ、太陽の様な恒星(星)の進化とその最期に起きる超新星爆発やその結果生まれるブラックホール、等について解説する。更に、最新の宇宙論であるビッグバン宇宙論とそれを支持する観測事実、余裕があれば宇宙論において素粒子理論のはたす重要な役割についても解説する。	
	地球の科学	太陽系の一惑星である地球を大気圏・水圏・地圏・生物圏からなる地球システムとして捉え、その概要を解説する。また、地球惑星と生命の共進化を中心に地球の自然環境を統合的な観点から概観し、人間活動に伴う地球環境を巡る諸問題について自ら考えるための基礎を講述する。	
	地球環境の科学	生活環境から地球環境に至る問題の多くは化学的現象が背景にあることから、環境問題を化学的視点から理解し、21世紀に人類がとるべき行動を考える。環境問題は、地域公害の時代から、地球規模に拡大した。その対策は、様々な分野の視点から議論がなされ、一人ひとりが問題意識をもって行動することを必要としている。この授業では、環境問題を幅広くとりあげ、例えば二酸化炭素増加による温暖化、オゾン層破壊による紫外線被害、酸性雨、大都市大気汚染などの現象の因果関係を科学的にわかりやすく説明し、対応策や規制について検討する。そして、持続性と発展性のある経済と社会を、健全な環境を維持しながら実現するにはどうしたらよいかを議論し、人類が進むべき方向について考える。	
	自然環境と人間社会	さまざまな地球規模の環境問題の現状、それらが生じる社会経済的背景、問題解決のための対策や課題について、生態学的視点から学び理解することを目標とする。地球環境の概要、人口増加、食糧問題、資源利用量やエネルギー消費量の増加、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、海洋とその汚染、熱帯林の減少、生物多様性の減少、砂漠化、水資源の枯渇、これらの問題を解決するための国内的・国際的取り組み、今後に向けての課題などについて概要を解説する。	
	生物と環境	動植物の分類、分布、生態、それらにみられる特徴と環境との関係について概要を学び理解することを目標とする。動植物の分類と類縁関係、日本および世界の動植物相や植生の分布の特徴、分布を決める要因や成立プロセス、動植物の生活にみられる多様性と規則性、それらにかかわる生態学的要因や進化的な背景などについて解説する。	
	生命と医療の科学	生命体を構成する物質である原子や分子によって起こる生命現象の仕組みを、私達の日常生活に結びつけながら理解する。特に、人間の生命を維持するために必要な遺伝子やエネルギー源となる化学物質とはどのようなもので、体内でどのように機能しているか、脳の機能との関わりはどうかなどについて、わかりやすく説明する。更に、病気や不健康状態について、体内で起こる現象を分子レベルで理解を深めながら、それらの対策としての医療と医薬品がもたらす役割について学ぶ。全体を通じて、最新の生命科学と医療科学を紹介しながら授業を展開する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人類の誕生と進化	進化の産物としての自分を知ることが目標とする。自然人類学は、生物としてのヒトがたどってきた進化の道程を明らかにし、ヒトが進化の産物であるために有する特徴を理解することを目的としている。ヒトの形成には、遺伝的な変化による「遺伝」進化のほか、文化的な変化による「文化」進化が大きく寄与している。これらの進化の原理について、具体的な事例を踏まえながら解説する。あわせて、われわれが日常的に行っている社会行動についても進化の観点からとりあげる。	
	脳の科学	ヒトを中心に、脳神経系のしくみとはたらきの基礎について、神経生物学の観点から理解することを目標とする。脳神経系の構成（中枢神経と末梢神経）、脳神経系の細胞の種類や情報伝達のしくみ、脳神経系の機能（感覚、とくに視覚、運動、体内環境の維持、記憶と学習、情動、思考と意識など）、左右脳の機能差と言語、脳神経系の生涯発達と進化、脳神経系に対する薬物の作用、神経生物学の研究手法と歴史、神経生物学の関連分野などについて解説する。	
	遺伝の科学	遺伝のしくみの基本を学び、なぜ女性と男性が半数ずついるのか、結婚したら遺伝病の子どもが生まれることはないのか、自分のクローン人間は自分と同じかなど、遺伝現象に関して日常的な疑問が理解できるようになることを目標とする。遺伝の基本（メンデル遺伝と非メンデル性遺伝）、細胞と染色体（細胞、細胞分裂と染色体の動き、染色体における遺伝子の配列）、ヒトの遺伝（通常形質の遺伝、遺伝病の遺伝、集団遺伝学からみた遺伝病の可能性）などについて解説する。	
	数学の世界	この授業では、数学の様々な姿にふれることが目標である。算数、数学は、小学校、中学、高校、大学で、多くの人が学ぶ最も重要で基本的な科目のひとつである。数学は自然現象や社会現象を科学的に考察し、理解する上で基本的な役割を担っている。数学の持つ論理の美しさは一度経験するとけっして忘れられるものではないのだが、数学は忌み嫌われることも多い。数学の一面のみを見ている結果と考えられる。今までに習った計算主体の数学ではなく、論理など数学の持つ様々な面に着目し、いろいろな方面から数学の姿を紹介していく。	
	情報の数学	普段何気なく使っているコンピュータにはいろいろな数学の理論が使われている。メールやインターネットを使うだけでなく、背景にある理論や仕組みを知ることにより、より深くコンピュータを理解し、数学およびコンピュータの面白さを知ってもらうことがこの授業の目標である。コンピュータを使って情報を送ったり、画像処理をしたりといった操作にはどんな数学の理論が使われているのか、論理、回路、暗号、符号、ネットワーク、フラクタル、CGなどの中からいくつか話題を取り上げ、文系の学生にも分かりやすく紹介する。	
	代数と幾何の基礎	高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法は関連する計算技術とともに、自然科学および社会科学において広く用いられている。この思考法の具体的な表現形式である「数ベクトル空間」や「行列」を中心に、線形代数学の基本的な概念と計算技術について、予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	代数と幾何の考え方とその応用	高校で学んだ、平面や空間のベクトルを用いた図形の取り扱い方を発展させた考え方が「線形代数学」であり、この思考法に基づく計算技術は、様々なデータの取り扱いや全体的傾向の分析をはじめ、自然・社会科学的現象の分析に広く活用されている。この「線形代数学」の計算的側面について、様々な応用例に触れつつ、距離を備えた「ベクトル空間」における基本的な計算技術の習得を中心に学ぶ。	
	微分と積分の基礎	微分と積分は、物体の運動と接線や面積などの図形問題を統一的に扱うために17世紀に体系化された数学の手法であり、当初から科学技術の基礎としての役割を担ってきた。この講義では、微分と積分の意味を理解して基本的な計算法に習熟し、具体的な問題に適用できるようになることを目標として、微分と積分の基本事項について解説する。特に、その発見が微分積分学成立の契機となった微分と積分の関係（微分積分学の基本定理）を理解することに重点を置く。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	微分と積分の考え方とその応用	自然や社会の現象に現れる平衡状態の記述や様々の最大最小問題などが、微分と積分の概念を用いて表現できることを学ぶ。1変数と多変数の微分と積分の基本的な計算法を修得し、具体的な問題に適用できるようになる。微分や積分を含む方程式の意味と簡単な場合の解法を理解する。	
	確率統計の基礎	自然や社会における様々な現象から抽出されたデータを分析する際に必要不可欠なのが統計の考え方である。まず、統計学の基礎となる確率の概念を理解することから始め、確率分布、条件付き確率、独立確率変数の和の分布、大数の法則、中心極限定理などの確率の理論の概要を学ぶ。次に、推定や仮説検定などの統計学の基本的な手法と、それらの応用について学ぶ。予備知識を仮定せず、文系の学生にもわかりやすく平易に解説する。	
	総合教養演習（人間と自然科学）	総合教養科目「人間と自然科学」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間と自然科学」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
(人間自身を知る)			
	こころの科学	大学に入り、初めて学ぶことになる心理学という学問への道案内をする。心理学ではどのように人の心を研究しているのかを理解するため、さまざまな心理学の領域における重要な研究を紹介しつつ、心理学の実証的研究の方法、こころに対する科学的なアプローチについても解説する。幅広い心理学の領域を網羅し、その知見を学習することよりも、心理学という学問の特徴の理解に重点をおいた講義を展開する。できるだけ身近な現象の理解に役立つようなテーマを取り上げる。	
	こころと社会	「社会的動物」と言われる人のこころを社会心理学の観点から解説する。人と人との関わる場面での人のこころの働きや、他者から受けるさまざまな形での影響、またさらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を取り上げる。網羅的に基礎的知見を学習することよりも、いくつかのテーマに絞って人のこころと社会との相互構成的な関係を探る。また、経済学、政治学、社会学などの関連領域、応用的テーマについてとりあげることもある。	
	こどものこころ	人のこころの発達を扱う発達心理学の中でも、特に乳幼児・児童期・青年期を中心に、人のこころの発達過程をとりあげる。発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。対人関係の発達、自己の発達、情動発達などの社会性の発達の側面と知覚の発達、言語発達、コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両方を扱う。こころの発達過程に関わる基礎的知識を取り上げるだけでなく、できるだけ新たな知見を取り入れて紹介する。	
	こころの健康	本講義では、こころの健康を理解するために、こころの健康に対立するこころの病理を取り上げて解説する。具体的には主な精神疾患をとりあげ、症状、診断、治療に関する基礎的理解を目指す。こころの病理について学ぶことで、健康なこころが持つ特性、あるいはこころの健康を維持する上での問題などを探る。	
	こころの進化	人間や動物の行動をより良く理解するためには、進化と適応という観点から他の動物とヒトの行動の特性を比較することが有用である。この授業では、人間を「ヒト」という生物の一種として位置づけ、その特徴を進化的枠組みの中で理解することを目的とし、人間のこころを進化と適応の観点から考える。また、比較心理学や進化心理学、あるいは比較認知科学といった関連領域の知見も交えて講義を行う。	
	思考と論理	論理学の本質と基礎的テクニックについて平易に説明する。論理を人間の思考に課せられた普遍的・絶対的な枠組みとして捉えるのではなく、世界標準となったヨーロッパの推理作法として捉え、その意味と具体的内容を概観する。証明のテクニックの説明は最小限に抑え、論理的な考え方の初歩のマスターを目指す。合理的思考法とは、どのようなものであるかを理解できるようにする。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	科学技術と倫理	科学技術の発達によって、人間の生活は大きく変わりつつある。一方では生活の利便さが追求され、その恩恵は十分に受けてきたが、同時にそこからもたらされるさまざまな不都合をも引き受けざるを得なくなっている。こうした科学技術の功罪両面について、現代の状況を冷静に見つめ、このような事態に至った歴史的・思想的背景を掘り下げ、個別分野における実態を参照しながら、今後どのような方向性を探ることが可能かを多角的に考える。	
	現代人の哲学	哲学は、ものごとを徹底的に問いただす学問である。ふだん当たり前と思っていることを、その根拠へ向けて深く問い直すとき、自明だと思っていた知識は崩れ、不思議さが思いがけず現れてくる。そこからさらに問い続ける姿勢が哲学の基本となる。これまでの哲学の歴史を振り返りながら、現代においてどのような思索が求められているのか、いくつかのトピックを題材にしながら考える。大切なのは、知識を単に学ぶことではなくて、自ら考えることで問いかける姿勢を身につけることである。	
	西洋の哲学のあゆみ	古代ギリシア時代から現代に至るまでの西洋の哲学・思想のあゆみを学ぶ。西洋の哲学は、科学や宗教との関わりの中でさまざまな変貌を遂げてきた。そして時には緩やかに時には劇的に変化しながら、時代の特徴を表している。この流れを大づかみに理解しながら、何人かの哲学者あるいは学派の考え方に分け入って、その思考法の特徴を理解する。これを通じて、現在のわれわれにとってどのような思考法が大切かを考える機会にする。	
	東洋の哲学のあゆみ	日本を含めた東洋の思想の流れを理解する。インド、中国、日本は、それぞれ、仏教、儒教・道教、神道などの思想を源流に持ちつつも互いの影響や外来の思想との交流を通じて、歴史の中でさまざまな姿をとってきた。その大きな流れを概括的に捉えつつ、その中からいくつかのトピックを取り上げて、東洋的思考法の特徴を明らかにし、それを通して、われわれの日常生活への活かし方や現代人の心のあり方についても考えるきっかけを提供する。	
	比較思想	人間の思想は、さまざまな文化的・歴史的背景を持ちつつ、相互に影響しあっている。それは個人のレベルにおいても、人間の多様な集団のレベルにおいても、共通しているといえる。その人間の思想の種々の側面を、他者との比較のなかで追究していくことを課題とする。	
	宗教学	宗教学の視点と方法、および宗教に対する思索の歴史など、宗教学の基礎的知識を学び、さらに現代の宗教を学問的に理解する方法と視点を修得することを目的とする。「宗教とは何か」という問題を考えるために、まず対象となる「宗教」をめぐって過去にどのような思索が試みられてきたのか検討し、「宗教」を捉えるための諸々の方法を紹介し、その上で“今”・“ここ”にいる私たちに「宗教」がどのように関わっているのかを考えるための具体的な材料を提供する。	
	日本宗教史	日本社会において、宗教観および世界観は、どのように展開して現在に至っているのかを通観する。主に神道と仏教とを軸として、「伝統」や「習俗」が形成される過程をたどることを目標とする。人々が何を畏れ、敬い、祀り、信じ、生や死とどのように向きあってきたのか、自らや周囲をどのようにとらえてきたのかについて、遺された史資料を基に分析し、最新の研究成果を紹介することにより、それらが現代に生きるわれわれに投げかけているものは何か、ということを考える手がかりとする。	
	宗教と現代社会	宗教は古来さまざまな姿かたちをとりながら、社会のあり方と密接に関係してきた。政治の中核に入り込むこともあったし、戦争や虐殺を引き起こすことさえまれではなかった。しかしその一方で多くの人々の魂の救済の役割を果たし人生の希望となることも少なくなかった。また大きな社会運動と結びつくこともあった。こうした歴史的・文化的な営みとしての宗教を、特定の宗教に偏ることなく、広い角度から検討することによって、現代社会にとって宗教が果たす役割を考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	総合教養演習 (人間自身を知る)	総合教養科目「人間自身を知る」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間自身を知る」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	
(人間の知的生産)			
	ことばの世界	ことばが人間にとってどのような意味を持つのか、社会や文化との関わりの中でことばの役割とは何かという問題意識のもと、私達の身近にありながら、ふだん意識することの少ない「ことば」の機能や特質を客観的にとらえることを目指す。他言語との違いも視野に入れながら、日本語の構造的特性を明らかにした上で、身近な具体事例を言語学的に分析していく。実際の社会における「生きた」ことばの実態や変容を探ることによって、自然に言語学的な考え方が身につくようにする。	
	日本の文学	文学作品には、それが書かれた時代それぞれの文化的状況が色濃く投影されている。一方、伝統的に書き継がれていくことによって地域的な特徴を形作っている。この授業では、日本の文学について、代表的作品を時代別に取り上げる。それらの芸術的特質や文学的意義をその背景となる歴史と文化の関連において理解すること、文学者たちが自己の人生といかに切り結びながら作品を創作したのかを見ることを通じて、学生自身が文学との関わりを主体的に考えることを目標とする。	
	児童文学	児童文学の誕生から現代までの発展への過程を各時代の代表的な作品にふれながら概観する。絵本からファンタジーまで、さまざまなジャンルの児童文学作品を読み、その多様性にふれながら多角的な視点から考察することによって、児童文学の特質について考える。児童文学の中のフェミニズムや絵本におけるジェンダー的視点も解明する。	
	比較文学	比較文学は、非言語で表現されたものも含めた広い意味での文学テキストに、複数の文化要素の接触、交錯を見ようとする試みである。日本および海外でなされた代表的な比較文学研究の例を見ることで、研究の主要な方法を学びつつ、国内外の文学テキストを比較しながら分析することを通じて、多様な異文化を理解し、同時に自らの文化のあり方を問い直していくという視座を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	比較文化	<p>文化間や種別間(男女やジャンル)の違い、さらには「違い」という境界の意識そのものに関して、交流や衝突、受容や影響、越境などの多様な視座から多角的に照射する。一つのテーマに関して、超領域的で学際的な講述を展開することによって、「文化」に関する学生の理解と意識をたかめるとともに、東西文化・異文化理解・異文化受容をキーワードとして、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性を示す。本講座は、上記の目標を達成するために、専門の異なる3人の教員によるオムニバス方式(全15回)をとる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (H30年度 61 田中美保子・62 中野貴文・218 土合文夫、H31年度 32 篠目清美・31 坂下史・62 中野貴文、H32年度 19 赤堀三郎・1 小田浩一・60 高橋修、H33年度 42 原田範行・23 今井久代・58 白井恵一／3回)(共同) 本講義の序論として、世界文化の諸相を概観し、次いで各回の基礎的視座について概説したうえで、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性について講述する。(1回) 本講義の中間のまとめとして、文化の交流や衝突、受容や影響、越境などについて、講師全員で討論を行う。(1回) 本講義のまとめとして、講義全体を振り返ったのちに、研究方法としての「比較文化」のありかたと可能性について、講師全員で討論を行う。(1回)</p> <p>(H30年度 61 田中美保子、H31年度 32 篠目清美、H32年度 1 小田浩一、H33年度 42 原田範行／4回) 英語文化圏を取り上げ、異文化理解をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p> <p>(H30年度 218 土合文夫、H31年度 31 坂下史、H32年度 19 赤堀三郎、H33年度 58 白井恵一／4回) ヨーロッパ文化圏を取り上げ、異文化受容をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p> <p>(H30年度・H31年度 62 中野貴文、H32年度 60 高橋修、H33年度 23 今井久代／4回) アジア文化圏を取り上げ、東西文化をキーワードに、比較文化研究の実例を挙げながら講述する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	宗教音楽	ユダヤ教から大きな影響を受けた初代教会の時代から、現代に至るキリスト教音楽の歩みを解説する。音楽史全般にわたる基本的な流れをふまえながら、中世から現代までの各時代の特徴的な様式、音楽上の技法、演奏形態等を把握しつつ、主にキリスト教的題材に基づく代表的な作品をDVDやCD等の鑑賞を中心に紹介し、教会音楽のもつ魅力を探る。教会音楽を支えてきたパイプオルガンを使用してチャペルで授業を行う場合もある。	
	音楽芸術	音楽(music)という言葉は、音芸術を意味する「ミュージック」(ムーザ)に由来するギリシャ語「ムシケー」に遡る。後の西洋音楽の理論等に多大な影響を及ぼした古代ギリシャの音楽等について文書資料や絵画資料等から情報は得られるものの、当時の音楽的な実態は明らかではない。この授業では、最古の楽譜が現存する単旋律の音楽の後約1千年かけて様々な発展を遂げてきた西洋音楽の中から、個々の時代や作曲家、或いはジャンル別に器楽・声楽作品を取り上げて、それぞれの特徴に注目し、作品における音楽的手法の理解を深めながら、その音楽の持つ芸術性を探る。	
	音楽史	中世から現代に至るまでの西洋音楽の歴史を辿りながら、その中でも特に重要な位置を占める器楽・声楽の作品、及び各時代の作品を生み出すために深く関わりを持ってきた様々な楽器や作品のジャンル等に焦点をあてつつ、それぞれの時代における様式上の特徴や作曲上の手法・形式を説明し、代表的な作品を取り上げ、DVD、CD等の鑑賞を中心に解説する。	
	美術論	美術を広く文化のなかにあるものとして捉え、美術の意味を明らかにすると同時に、講義を通して美術を見る眼を養い、多様な美術に関心を向けさせることによって、学生の知的生活を豊かにすることを目的とする。授業では、さまざまな地域・時代の美術を対象に重要なトピックを取り上げ、図版や映像を使用しながらその発展を追う。また、それらがどのような文化状況のなかから生じ、どのような文化的意味をもったかを、文献資料をも併用することによって掘り下げ、美術に対する深い理解を図る。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	映像論	映像は見れば理解できるのだろうか。自分が見たという「実感」は、はたして自分が「見た」のか、「見せられた」のか。報道映像でさえ、編集や修正次第で、いかようにも異なった事実を伝播する危険性も持っている。この授業では実際に映像作品に触れてその魅力を体験すると同時に、撮影・編集技法、およびそれぞれのフィルムの歴史的・文化的背景を学び、様々な角度から「異文化」として観察することで、映像表現の歴史と可能性、表現と受容の多様性を考察することを目的とする。	①と②を年度ごとに交互に開講 ①「美術論」 「映像論」 ②「舞台芸術論」
	舞台芸術論	演劇や舞踊など、さまざまな表現形態をもつ舞台芸術の流れを、実際の作品を鑑賞しながらたどり、その特質を考えることを目標とする。舞台芸術の源流は、祭りに際して、集団を束ねる重要な場として、有史以前から存在していたものと考えられる。その後、舞台芸術は、社会体制、政治体制に応じ、またはそれらの変化に伴い発達していく。この授業では、舞台芸術の歴史や鑑賞法について基本的知識を獲得するとともに、芸術と社会の関連もふくめた全般的な認識を深め、舞台芸術と主体的にかかわる態度を涵養する。	
	日本文化史	行事・風習・信仰などの日本文化について、歴史的展開を踏まえながら、その特徴を解説する。ビジュアルな調査資料を使用しつつ、有形・無形を問わず我々の身の回りに存在する、多様な文化現象を具体的なイメージを持って把握できるようになることを目標とする。現代の日本文化は伝統文化とどのように連続し、あるいは断絶したのか。そして、外国文化から過去どのような影響を受け、またどのように異なる点が日本の独自性といえるのか、多角的なアプローチも試みながら、日本文化の歩みについて考えていく。	
	日本の伝統芸能	日本の伝統文化として継承されてきた芸能の歴史や特質について、観賞するための基礎となる時代状況や文化的背景を取り上げつつ、具体的な演目を通して学ぶ。また、伝統芸能を観賞するための基礎となる時代状況や文化的背景についても取り上げる。伝統芸能が生活に密着したものであり、現代に通じる部分も多いという点に着目し、演者の巧みな話芸や動きが伝えるメッセージについて、演ずる側の視点も盛り込みながら考えていく。	
	世界の地域と民族	世界の諸地域・民族は変動をくり返しながらも、相対的に異なる多様な社会や文化を築いてきた。本授業では、そうした変動のなかにある個々の地域・民族を取り上げ、それらの社会や文化の特徴が産み出されてきた過程を、政治や経済などを含む、生態的条件や歴史的な変動を通して考察し、当該地域・民族への理解を深める。それらの地域・民族の固有の諸問題が中心に論じられるが、ただ単にそれらを孤立した存在として見るのではなく、それらを取り巻く他地域・民族との比較や関係をも視野に入れる。そうしたアプローチを通して、それら諸地域・民族の歴史を、広く人類史の中に位置づけて考察し、理解することを目指す。	
	ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパの文化はダイナミックに変化しながら世界に広がり、時に各地の文化と軋轢を引き起こしながら、一方でモデルとしても機能してきた。この授業では、ヨーロッパ地域に現れた歴史上の様々な現象を取り上げ、それがいかなる歴史的、文化的背景から生じてきたか、またそれらの現象が既存の社会や文化をいかに変化させてきたかを探る。それを通し、ヨーロッパの社会や文化がどのように形成されてきたか、そしてそれがいかにして多様性と共通性を産み出し、現状に至ったかを歴史的に理解できるようにする。さらに、この理解の上に、異文化と主体的に関わることの意義を考える。	
	アメリカの歴史と文化	「アメリカ」と呼ばれている地域は、ひとつの共通性を有する一方、極めて多様な自然・社会・文化を内在させた地域でもある。この共通性と差異性がどのように形成され、その表現方法が転換していったか等を歴史的に考察する。この授業ではこうした観点からアメリカの人々と「私たち」の視点の差異、またそれぞれの関わりを考慮しながら、アメリカの文化・自然の歴史と現状に関する理解を深める。重要なテーマをいくつか抽出し、テキストや映像資料などを用いて解説すると共に、異文化と主体的に関わる態度を涵養する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ラテンアメリカの歴史と文化	現在「ラテンアメリカ」と呼ばれている地域は、極めて多様な自然・社会・文化を有する地域である。この授業ではラテンアメリカの人々と「私たち」の視点の差異、またラテンアメリカ諸地域に存在する共通性と多様性を意識しながら、人々の行動の背景にある「文化」がいかなる歴史の中で生まれ、それが現在どのような現象となって現れているかについて理解を深める。この地域の文化的特長を理解する手がかりとなるいくつかの事項について、テキストや映像資料などを用いて解説すると共に、異文化と主体的に関わる態度を涵養する。	
	アジアの歴史と文化	アジア各国は文化面をはじめ種々の側面において、多くの共通性を有する一方、地域や歴史による差異性をも有している。この授業では、アジア地域に現れた歴史上の様々な現象を取り上げ、それがいかなる歴史的、文化的背景から生じてきたか、またそれらの現象が既存の社会や文化をいかに変化させてきたかを探る。それを通してアジアの社会や文化がどのように形成されてきたか、そしてそれがいかにして多様性と共通性を産み出し、現状に至ったかを歴史的に理解できるようにする。さらに、この理解の上に、異文化と主体的に関わることの意義を考える。	
	民俗学	日本民俗学の対象、課題、方法の概要を、それらの変遷・展開や成果の具体例を提示しながら講じる。この学問が対象とする「民俗」とは何か、どこにどのように存在しているのか。それはどのような手続きによって資料化され、どのような理論・方法に基づいて分析や解釈が行われるのか。それらは学術としてどのように変遷・展開を遂げているのか。さらには、伝統社会の変容や、現代の地域・集団の中で人々が育む暮らしや仕事をめぐる文化の動態について、民俗学がいかに肉迫し、どのような成果を挙げてきているか。こういった諸問題を解説する。	
	歴史の見方	歴史の中で、人間は種々の社会集団を、階級や人種、性や年齢、国家や地域、民族や言語などにより形成し、それらの間には、支配・被支配、同盟・非同盟、中心・周辺といった様々な関係を取り結んできた。これまでの歴史研究において、それらの諸関係の実態やその形成の歴史的・空間的な諸条件の究明とともに、その研究法、さらにその歴史的意味や解釈などについても種々の理論提起がなされてきた。本授業ではこうした諸関係のうちから一つあるいは複数の問題に光をあてて、歴史的な観点から迫るとともに、それらに関する意味づけや解釈の変化にも言及することで、歴史観の相対化の意義を理解する。	
	現代史の諸相	20世紀以降の世界の歴史を概観し、世界現代史を考察していくうえで必要となる基礎知識の体系的な修得をめざす。具体的には、現代史を動かしてきたイデオロギー、即ちナショナリズム、社会主義ないし共産主義、ファシズムが、どのように展開したかを理解し、その今日に残る問題を考える。また、現在も絶えない民族対立、人種主義、階級社会と大衆社会が抱える諸問題などを探り、そのメカニズムを理解する。同時に、現代史資料の検索方法および代表的な史料の内容紹介、読解・分析と密接にかかわる史料批判の方法等を講述する。現代史を考究していく際に不可欠の基本的技法も、新聞や映像メディア等の素材で補完しながら具体的な理解・修得をはかる。	
	アーカイブの世界	情報化社会が進む現代社会において、氾濫する膨大な情報を取捨選択した上で、記録として管理・保存し、活用可能な形に整えるアーカイブ（記録史料・文書館）にまつわる仕事の必要性は高まっている。近年の「公文書管理法」施行にともない、日本で定着化が進むと目されるアーカイブに関する基本的な知識の習得を目標に、授業を進める。 また、記録史料を取り扱う専門職であるアーキビスト、記録史料にまつわる専門的な保管機関である文書館の社会的役割と意義についても理解を深められるよう、様々な具体的事例を紹介しながら、講義を行う。	
	総合教養演習（人間の知的生産）	総合教養科目「人間の知的生産」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間の知的生産」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(人間社会の仕組みと問題)		
	日本国憲法	この授業では、国の統治機構、基本的人権を中心に、代表的な判例を紹介しながら論点を整理し考察していく。日本国憲法制定の歴史、基本的人権の歴史、プライバシーの権利、法の下での平等、自由権的基本権、社会権的基本権、統治機構としての立法権、行政権、司法権などを取上げて日本国憲法の基本原理を学び、憲法改正問題についても触れる。	
	公共政策と法	行政法は、国家の基幹に関わると同時に、私たちの身近な生活にも関わる法分野である。この授業では、実際の事例を取り上げながら、行政法の総論部分についての基礎的な内容を紹介する。具体的には、法分野全体における行政法の位置づけを明らかにし、行政組織（地方行政と国家行政）について解説する。つぎに、行政と国民の関わりを考察するとともに、行政の行為形式（計画・立法・行為・指導・契約）についてもふれる。参加・調査および情報収集・政策立案・政策評価・文書管理を概観する。最後に、情報公開や個人情報の保護など、最近の問題に触れながら、行政と国民のかかわりを考察する。	
	市民社会と法	民法は、日本の法体系の中にあつて、財産・取引・結婚と離婚、相続といった私たちの市民生活を広く規律の対象とする重要な法律です。この授業では、こうした民法のしくみを学ぶとともに、調停・和解・裁判という法による紛争解決の方法や法的なものを見方を身に付けることを目指します。身近な話題を織り込みながら、主として、民法の「総則」規定を解説していきます。	
	国際社会と人権	20世紀の国際人権概念の拡大をふまえた世界の人権発達の歴史を概観し、欧米社会を軸に広まり、世界各国の憲法に基本的人権の保障として謳われるようになった人権思想の流れについての基礎知識の修得をめざす。人権概念の拡大、国際人権法、人権尊重などに関わる重要なトピックに焦点をあてながら、戦争やジェノサイドの原因ともなってきた、人権侵害の歴史と現在の問題も取り上げる。	
	自治と行政	行政組織や行政活動に関する理解を深めることを目的とする。官僚制組織一般の構造と機能、日本の中央官庁システムの特徴とその歴史の変遷、日本における政治と行政のかかわりと官僚の民主的統制、行政改革の意義と限界、日本における中央と地方政府間の関係、自治体行政の特色、新たな行政課題に対する自治体の挑戦などに関して講義を行う。公務員志望の学生諸君のためにも役立つ講義を目指す。	
	社会学と現代社会	グローバル化、自由化という現代社会の構造的変動のなかで、さまざまな社会問題が顕現し、その解決や人間の幸福づくりのための枠組（産業主義、民主主義、合理主義、個人主義など）は問い直され、新しい枠組づくりが模索されている。社会学は枠組の模索という課題の一翼を担い、家族、地域、会社、行政、政治、教育、メディア、文化、科学技術、宗教、エスニシティ、国際関係など広い範囲の問題と関わっている。この授業では、社会的なもの考え方とはどのような特徴を持つものなのか、具体的な問題を例としながら、社会学というものの考え方の核となるものについて解説する。	
	地域社会論	日本の社会学は、日本の伝統的な地域社会構造、現代日本の地方都市や中山間地域社会のかかえる問題を明らかにし、他方で高度経済成長以降の日本の地域社会の変動、現代の大都市のかかえる諸問題などを考察してきた。さらに、現代社会のグローバル化をふまえた、新しい研究が展開され始めている。すなわち、地域の衰退（限界集落、離村、廃村など）、都市貧困層（若年未就労者、高齢者、エスニックマイノリティなど）の増大などが問題となり、解決のために自立支援と共生社会開発の方法が模索されている。こうした地域社会研究、地域文化研究などの成果を紹介しながら、グローバル化する地域社会の問題を考察してゆく。	
	社会保障と社会福祉	福祉の概念を理解し、その根幹となる社会保障と社会福祉を考える。社会保障は人間の生活にかかわる生活保障の一部である。誕生前の胎児期から死亡までに生じる就職、結婚、出産、傷病、老齢、死亡といったライフサイクルに沿って生じる人生のリスクに対応して社会保障制度が体系化されている。日本の社会保障について、公的扶助（生活保護）と社会保険（年金と医療）の制度を中心に学ぶ。高齢者の問題、ジェンダーの問題、医療の問題などをめぐり、少子高齢社会における社会保障と社会福祉の歴史、現状、将来の課題について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報と社会	コンピュータを中心とする情報技術の発達が今日の社会・文化に与えている変化について、歴史的経緯とその意味を考える。コンピュータ技術そのものではなく、そのようなコンピュータのあり方を形成してきた文化的背景を取り上げる。この授業では、現在、インターネットを中心とする情報技術がどのように発展しつつあるのか、またそれがどのような社会・文化の変化をもたらしつつあるのかについて考える。また、その中で、情報コンテンツの著作権などをめぐり、情報倫理の問題がどのように提起され、どのように論じられているのかについても理解する。	
	現代社会と教育	現代社会における子ども・青年の生活と教育をめぐる問題、たとえば、貧困と就職難の問題、学校や教育産業を介して加速される学力競争がもたらす弊害などを、現代社会の仕組みや機能などとの関連で扱います。現代社会の特徴として経済的競争のグローバル化や高度情報化の進行、それにともなう政治化の浸透を挙げることができますが、人類が追い求めてきた、一人ひとりが自由かつ平等であるという理念を実現するためにはどのような条件が現代社会と教育に求められるか、考察を進めます。	
	近現代日本の政治史	鎖国という独自の外交体制をとっていた日本は、西洋諸国のアジア進出の脅威にさらされた。それは独立の危機であり、植民地化の危険性を孕んでいたが、日本の指導者は近代国家を形成し、富国強兵をめざすことで乗り切ろうとした。それは日本の「文明国」化と帝国主義化であり、他方では東アジアでの優越的な地位につながった。日本はやがて大国となったが、昭和期になると既存の国際関係に挑戦し、新たな国家体制の構築に向かい、戦争と敗戦、そして戦後の新たな歩みが始まることになる。本講義は日本の近現代史を、政治・理念・認識を中心に考察する。	
	国際社会と日本	日本と国際社会との関係を多面的に分析し、将来の日本の針路を考えることを講義の目的とする。現在の日本が抱えている外交、安全保障に密接な関係をもつ諸問題について時事的な問題も盛り込みながら講義する。グローバル化によってボーダレス化が進む一方、主権国家体制が存続している現代世界における日本の位置づけについて理解を深める。	
	平和学	我々はこれまで「平和」について真剣に考えたことがあったであろうか。「平和」を追求すべきだとの価値観にたつ学問が「平和学」である。この授業では各種の「平和」概念の整理をしてから、「構造的暴力」や「積極的平和」、「中心と周辺」などの論争的な概念を学び、次いで紛争の原因分析、紛争予防の試み、平和構築などを考察する。	
	ヨーロッパの比較政治	EUを中心としたヨーロッパ諸国の政治体制、外交政策の比較を行い、ヨーロッパの政治を理解させることを目標とする。統合されたヨーロッパ、多様なヨーロッパの両面を論じることによって、理解を深める。EUの誕生から発展、EUの現状、ユーロの導入、トルコなど非EU諸国の加盟問題、NATOの現代的な位置付け、欧州地域内の民族問題、ヨーロッパ諸国と国連・米国・日本との関係などについて講義を行う。	年度ごとに交互 に開講
	アジアの比較政治	ASEANを中心としたアジア諸国の政治体制、外交政策の比較を行い、アジアの政治を理解させることを目標とする。アジア諸国は、民族や宗教が多様である半面、稲作文化や港市国家の文化等、多くの共通性も有している。こうした特徴を説明する中で、アジアに対する理解を深めたい。ASEANの設立と現状、ASEAN内における後発諸国の問題、APEC・ARFなどアジアの地域機構の役割、アジアNIE Sの経済発展、東アジア共同体の可能性などについても触れる。	
	日本の産業と企業	日本のさまざまな産業の現状や特徴、さらには課題について具体的に学ぶことを目的とする。この授業を通して、広く日本経済の動向と日本企業の経営動向・手法等について理解を深めるとともに、日本の産業の展望を探っていく。また産業界の動向に応じて新しいトピックスを取り入れることで、最新の情報にも触れることが出来るよう、講義を進めていくものとする。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本経済のしくみ	日本経済は高度経済成長、オイルショック、バブル経済とその崩壊、さらに「失われた20年」を経て、新たな展開を迎えている。また東日本大震災を経た日本経済は新たな対応を迫られることとなった。このような様々な経済の局面、その時々課題と対応を理解するために必要な専門用語や経済的な思考を学び、日本経済をより専門的な視点からとらえる能力を身につけることを目的とする。	
	グローバル経済のしくみ	「グローバル経済」は複雑かつ動的である。アメリカ、EU、アジアに代表される経済圏は内的に発展を続け、外的に相互の関係を深めつつある。本講義では先進国、開発途上国、さらには新興国それぞれの現状と課題を概観する。また、経済の専門用語の理解、貿易や為替などの仕組みについても学ぶことで、グローバル経済を論理的にとらえる能力を身につけることを目的とする。	年度ごとに交互 に開講
	アジアの経済事情	アジア経済圏はアメリカ、EUに並ぶ巨大経済圏に成長した。これは成長著しい中国、東南アジア諸国の経済発展、また先進国である日本の存在によるものが大きいものと思われる。その一方で、発展から取り残された地域の存在も無視できない。本講義では世界経済をけん引する力強い成長と開発途上国の開発の双方の視座より、アジア経済の現状や課題について理解を深めることを目的とする。	
	国際金融と貿易	現在の日本経済の状態を知るためには、他国の経済や国際的な貿易、金融、労働移動のシステムを理解することが不可欠である。本講義では国際金融と国際貿易に関する基礎的な概念、制度、理論を学ぶことを目的とする。また、現在世界で進行している経済のグローバル化が金融や経済及び国民の労働や生活にもたらす影響や、グローバルな政治経済の中で今後の日本経済の展望について考える。	
	統計のしくみ	人間科学や社会科学における実証研究を行う上で必要不可欠になってくる統計的な世界観、その基本的な概念、すなわち、一定の誤差や変動を内包した事象への接近法、基本統計量と統計的推定の考え方、検定の方法などについて、数学が苦手な受講者を想定しつつ一通りの理解をめざす。具体的な項目としては、変数・尺度と適用可能な操作、度数分布表、統計グラフ、代表値、散布度、相関、クロス集計、検定の理論の基礎、 χ^2 乗検定などについて扱う。	
	統計分析を学ぶ	統計的知識を活用してデータを分析できる力をつけることを目標とする。具体的には、度数分布、基本統計量、正規分布、変数の標準化、相関と散布図、クロス表などの記述統計という基礎をベースに、確率論の基礎、母集団と標本・標本抽出法のサンプリングの概念、検定・推定の理論とその応用（平均と比率の差の検定、相関係数の検定、クロス表の独立性の検定など）に加え、分散分析、回帰分析、重回帰分析などの一般的なリニアモデルを使った検定や分析方法などを扱う。	
	エネルギー産業と国民生活	本講義は、エネルギー産業の特性を経済学的視点から理解し、電力自由化の理論とその実際について学ぶことを目的とする。東日本大震災後のエネルギー産業の変化、さらには原子力発電とエネルギーセキュリティをめぐる論点など、包括的に扱う。この授業を通じ、今後の電力自由化後の日本のエネルギー供給体制、インフラ投資の必要性などの新たな課題など、最新の情報にも触れることが出来るよう、講義を進めていくものとする。	
	総合教養演習（人間社会の仕組みと問題）	総合教養科目「人間社会の仕組みと問題」領域に関連するテーマを取り上げる演習である。2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。「人間社会の仕組みと問題」領域において、学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(女性のウェルネス)		
	女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	身体的にも精神的にも社会的にも良好で生き生きとした状態を積極的に得る為に、女性のライフステージからみた健康と身体運動についての基礎的な知識を学ぶ。そして心身のコンディションを自己管理する重要性と基礎的手法を学び、各種トレーニングを通して自己の身体を認識し、将来起こり得る健康上の様々な状況に適宜対応できる知識と身体能力を養う。また、様々なスポーツによるグループ活動を通してコミュニケーション能力を高める。	
	女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	女性が生き生きとした社会生活を営むために必要な健康を支える方法論について学ぶ。自己の身体を各種測定で把握し、望ましい生活習慣と運動による正しい健康増進法を理解する。また、各種エクササイズやスポーツなど、グループ活動を通して他者と共に楽しみながら自己の身体能力やコミュニケーション能力を高め、心身の融合及び健康の維持・増進を図るための正しい運動法を身につける。さらに生涯を視野に入れ、自分に適した健康法、運動法のプランを立て、主体的に実践していく力を養う。	
	からだの科学	からだや健康に関連することがらについて、日々の生活で身近な話題や日常生活で役立つ内容も多く取り上げながら、からだの機能やメカニズムを科学的に捉え、運動に対する適応の仕組みを学び、積極的に健康を育てていく姿勢を養う。女性のからだに着目し、妊娠・分娩・婦人科疾患についても学び、健康で自分らしく生きていくためにはどうすれば良いかを考える。	
	発育と発達	子どもは自発的に遊び、子どもなりの方法でその動きを身につけながら育っていくことが理想であるが、現代社会においては必ずしもそのとおりにはいかない数々の事情がある。本講義では、子どものからだの発育・発達の原理・原則を学び、さらに、体力・運動能力に影響する要因や正しい測定・評価方法などの知識を身につける。「育った」結果としての自分を考察するとともに、次世代を「育てる」自分を見据え、子どもの好ましい発育・発達を考える。	
	栄養と健康	健康に生きるための「食」についての知識、理論、実践法を学ぶ。栄養と運動は健康に直結している。摂取する食のエネルギーと生きているからだが使うエネルギーのバランス及びその内容の重要性について学ぶ。また、現代社会ならではの食の問題について考え、自らの食生活をチェックすることなどを通じて、健康に過ごすための食生活について理解を深める。	
	現代社会と身体	身体を取り巻く様々な問題を取り上げる。急激な情報化がもたらされた現在「自己の存在の希薄化」と「他者との身体的コミュニケーションの困難さ」という身体問題がクローズアップされてきた。ここでは、現代社会の身体を取り巻く諸問題について歴史の変遷を学び、健康と身体・日本人の身体・差別と身体・メディアとしての身体等の事象を取り上げ考える。ジェンダー的視点も取り入れ解決の糸口を探る。	
	女性の健康科学	女性の基礎的教養として、生涯を通して必要な女性の身体とその機能、それに付随する事柄を科学的に理解することを目標とする。身体の解剖・機能・妊娠・分娩・婦人科疾患などについて基礎的な事柄を理解する。また性の問題や不妊治療、出生前診断などの、生理的知識のみならず、倫理的問題、またジェンダーの視点も加味して、性や生命の問題について考えを深める。	
	性と生命 (セクソロジー)	本講義では生理学、性科学、ジェンダー、性の多様性、人間の性愛とは、性と社会など多面的に考察する。時代の大きな変化の中で「性」のあり方もまた大きく変わりつつある。かつて女性の性は自らの意思や希望によって選ぶことなど許されなかった。結婚する、しない、産む、産まない等、自己決定や選択の余地はなかったのである。今、それらは選択の対象となった。それは結果について自ら責任を負うことである。自分自身納得できる生き方を貫くためにはどうしたらよいか。性への偏見や思い込みを捨て一から学び直す。	
	女性の心身コンディショニング	現代社会は様々なストレスにより心と身体の不調を訴える人々が増加している。この講義では、女性が健やかに一生を送ることができるよう心身のコンディショニングを整えるための理論と方法論を学ぶ。はじめに身体の構造を学び、不快症状の原因を探る。さらにその解消方法を様々な健康法から学び、実習することにより心身の自己管理能力を養い、生涯を健康的で豊かに過ごす能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツA	スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋外で出来るスポーツ（テニス、サッカー、ソフトボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツB	スポーツは、私たちの生活を豊かにすることができる「地球規模の共通文化」である。ここでは様々なスポーツの中から、屋内で出来るスポーツ（バドミントン、卓球、バスケットボール等）を取り上げ、基礎技術を習得し、身体能力の増進をはかり、スポーツを通じてコミュニケーション能力を養う。さらに生涯の健康増進も視野に入れ、スポーツを主体的に日常生活に取り入れていくための素養・能力を養う。	
	スポーツC	様々なスポーツを通して自分に合ったもの及び方法を探り、生き生きとした生活の一部として組み入れることができるよう、実践的に学ぶ。ルールを守り、安全に実施できることも重要な課題である。そのスポーツ特有の面白さを理解し、できないと思っていたことができるようになっていくプロセスを体験することにより、その魅力を第三者にも伝えられるようになることを目指す。	
	スポーツD	スポーツに関わる形は多様化しており、環境やルールや用具などを選択することにより、幼児から高齢者、体力の低い人や障害のある人でも生涯にわたり楽しむことが可能である。健康の維持・増進だけでなく、趣味や生きがい、社交の場ともなる生涯スポーツの意義や価値を知り、様々な活動の形に興味・関心を持って主体的に関わる態度を養う。基本技術を習得し、「できる」ことを増やすことで生涯スポーツの可能性を広げる。	
	フィジカルエクササイズA	本授業では伝統的中国養生法、身体技法をとりあげ、現代に生かす身体観、健康観の基礎を築き、身体技法を身につけることを目標とする。心を動かし、そして、身体を動かす。太極拳、練功十八法等を通して、動くことを外から見える身体の運動だけでなく、心の内面の充実、ゆっくり、心と対話しながら、身体の内面を磨くために伝統的身体技法を身につける。	
	フィジカルエクササイズB	代表的な健康法として知られているインド発祥のヨガは、特有のポーズと呼吸法で身体全体の免疫力の向上、ストレス緩和効果など、健康の維持や増進に役立つ効果がある。また、ピラティスはリハビリテーション・プログラムとして開発された経緯を持っているため様々な年代における健康増進や筋力強化に効果がある。ここでは、ヨガやピラティスについての正しい基本的な知識や方法・効果について学び、実習を通してその技法を習得し、生涯の健康を支える自己管理能力を養う。	
	フィジカルエクササイズC	痩せたい、筋肉をつけたい、スポーツがうまくなりたいなど、目的によって様々なトレーニング方法があり、メディアには多くの情報が氾濫している。しかし、運動（トレーニング）と身体の変化には原理・原則がある。その基礎理論を学ぶことにより、それらの情報の持つ正しい内容を理解できるようになる。目的に応じた適切なトレーニング・プログラムを自ら作成する力をつけ、継続的に実践することにより、自分の身体が変わっていくことを知る。	
	身体表現A	人類の誕生と共に発生したダンスは、歴史・民族・風土・社会と深く関わりながら舞踊文化・身体文化を作り上げてきた。ここでは芸術性を重視したダンス（バレエ等）を取り上げ、その歴史的変遷を学び、各ダンスの特徴を学習していく。同時に基本技術を習得し、身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。	「身体表現C」と交互に開講
	身体表現B	身体を通して表現する楽しさや洗練された身のこなし、豊かな感性の獲得を目指す。ここでは現代的なリズムに合わせたダンス（ジャズダンス・ヒップホップ等）の歴史的変遷を学び、基本技術を習得し、身体を通して表現する。音楽にあわせて踊るジャズダンスやヒップホップといったダンスを通して身体に意識を向け、ダンステクニックの基礎を習得しながら、表現力と感性を高め、身体表現の可能性を広げる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	身体表現C	日本人の身体文化に注目する。日本人の立ち居振る舞い、その特徴、日本の舞踊文化の歴史の変遷を学ぶ。踊りを習得し衣装を付け、身体を通して表現する。授業を通して、日本の伝統文化を発信できる知識も養う。伝統に培われた自然な身体技法を身に付けながら日本文化の真髄をからだで味わい、表現する。	「身体表現A」と交互に開講
挑 戦 す る 知 性 科 目	ケンブリッジ教養講座	この科目は、学生の学習機会の多様化を促進し、国際人としての広い社会的視野と深い見識を身につけることを目的とする。本学の夏期休暇中の約4週間、海外の大学で実施する教養講座に参加し、所定の成績を修めた場合の単位認定の科目として設置する。 本学で身につけた外国語の運用能力を用いて、講義・討論・発表等を行なうことで、個々のテーマに関する知識を拡充し、その理解を深めると同時に社会・経済・文化をグローバルな視点で捉える能力の育成をめざす。	
	PBLキャリア構築講座	本演習は、2年次以上の全学科学生を対象とする。異なる学科、異なる学年の学生が一つのテーマの下に集い、議論や発表を通じて、他人の価値観、発想の多様性を認識することで、問題点を広範な視野で捉える力を養う。学生自身が主体的、能動的に課題を発見し、分析・検討に必要な情報を収集・整理し、教員の直接指導と学生同士の切磋琢磨を通じて、探求していく力を身につける。この授業はPBL方式で行い、現実社会における課題にチームで取り組む。一人ひとりが問題解決力、行動力、リーダーシップをとる能力を高めることを目的とする。	
	英語特別プログラム	British Councilからの派遣講師による、本学学生のために特別に開発されたプログラムを用いた講座。ビジネスなどさまざまな分野で使用する実践的な英語力を養い、職場などで必要となる高度なディスカッション、プレゼンテーション、スピーキング、ライティングのスキルの習得を目指す。特に、履歴書の作成、願書・申請書などの作成、グラフの作成、プレゼンテーション、電話による応対、ビジネス・ミーティングなどの項目を含む。	
	Critical Thinking演習	Students in this course will learn to solve problems through the use of critical thinking techniques and strategies. Students will learn to identify their values and prejudices, and compare alternative ways of solving problems in order to make well-reasoned decisions. A major focus of this course will be analyzing arguments and possible logical fallacies in public discourse. この授業ではcritical thinkingの技法や方略を用いて種々の問題を解決することを学ぶ。自分の議論のなかに存在するさまざまな価値基準や先入観を見極め、問題解決のための多様な代替案を比較検討することで、実生活において、より理路整然とした結論を導きだすことを目指す。この授業では、公共の議論の場における言説を対象に、そこにおけるさまざまな議論、そして考えられる数々の論理の間違いや論理のすり替えを分析することに、特に焦点をあてて学習する。	
	発話・パフォーマンス演習	Students will learn not only how to organize presentations through a practical, step by step framework, but also how to deliver presentations effectively with appropriate eye-contact, pronunciation, voice control, etc. Students will practice oral presentations in class and, with the benefit of video feedback and mutual evaluation, become more proficient at expressing their ideas. Activities such as e-learning will be assigned as out-of-class work in order to help improve general English skills. 英語プレゼンテーションの実践的な枠組みを段階的に学びながら、その内容の作文方法や論の組み立て方を学ぶ。そして、その内容を、適切なアイコンタクト、発音、声の抑揚などを伴って、効果的に伝達する方法を身につける。授業内で実際にプレゼンテーションを実施し、ビデオによるフィードバックや相互評価をもとに、より流暢に英語で考えを表現できるようにする。英語の4つのスキルを総合的に向上させるために授業外のe-Learningの課題を学習することを課す。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	討論演習 1	<p>This class is a public speaking course which builds upon and extends the skills acquired in the first year of the Career English program. Students will be required to research and analyze the information about their presentation topics, and participate in pair and group dialogues, discussions, and presentations. Students will also be required to complete self and peer assessments. Out-of-class activities will be assigned.</p> <p>この授業はキャリア・イングリッシュ課程の前年度の授業で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。学生は、プレゼンテーションのテーマに必要なリサーチを行い、そこで収集した情報を分析する。授業ではペアワーク、グループワーク、ディスカッションに参加し、各自がプレゼンテーションを実施する。また、それらに対する学生による自己評価および相互評価も行われる。授業外での学習が課される。</p>	
	討論演習 2	<p>This class is a public speaking course which builds on and extends the skills learned in 討論演習 1. Students will develop their ability to exchange ideas and express their opinions in discussions and speeches on more challenging and complex issues than in 討論演習 1. Students will be required to think critically about the topics brought up by themselves and others and to express their opinions about them logically. Out-of-class activities will be assigned.</p> <p>この授業は「討論演習 1」で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。「討論演習 1」で扱った問題よりもより難しく複雑な内容の問題についてディスカッションやスピーチを実施するなかで、英語で意見を交わし考えを述べる力を向上させる。自分あるいは他の学生が提示するテーマに関して批判的に思考し、それに対して論理的に意見を述べることを求められる。授業外での学習も課される。</p>	
	Total Presentation演習 1	<p>This seminar is a public speaking course which builds upon and extends the skills learned in the last two years of in the Career English program. Students will develop their English speaking and listening skills through discussions and presentations on a range of challenging issues. Students will study a variety of topics in order to deepen their knowledge and understanding of the topic, enhance their vocabulary and think more critically.</p> <p>この演習はキャリア・イングリッシュ課程の過去 2 年間で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させるパブリック・スピーキングの授業である。広範囲にわたる分野の難しい問題についてのディスカッションとプレゼンテーションを行うことで、英語のスピーキングとリスニング能力を向上させる。さまざまなテーマについて学ぶことによって、そのテーマについての知識と理解を深め、関連する語彙を増やし、より批判的に思考することを学ぶ。</p>	
	Total Presentation演習 2	<p>This seminar is the final public speaking course in the three-year Career English program and builds upon and extends the skills learned in トータルプレゼンテーション演習 1. Students will develop their English speaking and listening skills further through in-depth discussions and presentations on a range of challenging issues. Students will study a variety of topics extensively in order to deepen their knowledge and understanding of the topic, enhance their vocabulary and think more critically.</p> <p>この演習はキャリア・イングリッシュ課程 3 年間の最後のパブリック・スピーキングの授業であり、「トータルプレゼンテーション演習 1」で習得したさまざまなスキルをふまえ、さらに発展させる。広範囲にわたる分野の難解な問題についての徹底的なディスカッションとプレゼンテーションを行うことで、英語のスピーキングとリスニング能力をさらに向上させる。広範囲のさまざまなテーマについて学ぶことによって、そのテーマについての知識や理解を深め、テーマに関連した語彙を増やし、より批判的に思考する。</p>	
キリスト 教学	キリスト教学 I (入門 I)	<p>東京女子大学とキリスト教の関係を学ぶことによって、本学の「建学の精神」を理解する。さらにキリスト教の全体像を学び、そのキリスト教の土台である聖書を学ぶ。入門 I では、「旧約聖書」の主たる内容を理解し、これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科目	キリスト教学Ⅰ（入門Ⅱ）	入門Ⅱでは「新約聖書」を通してキリスト教の基礎を学ぶ。イエス・キリストの生涯とその教えを学び、とりわけキリストの十字架と復活の出来事の意味を理解し、さらにパウロらによる初代教会の歩みを学ぶ。これらの学びを通して、現代世界に生きる自らの人生について考える。	
	キリスト教学Ⅱ（旧約聖書の世界）	キリスト教の正典の前半を構成している旧約聖書には、複雑な歴史と多様な文化、中近東特有の自然風土のなかで培われてきた豊かで奥深い思想（価値観、世界観、人間理解への洞察を含む）が観られる。それらは新約聖書にも流れ込み、キリスト教の重要な思想的基盤ともなっている。本講義ではいくつかの主要テーマを取り上げ、聖書テキストの精読とともに、歴史と文化、及び自然風土等の背景理解の手助けを借りながら、キリスト教の基本的理解を確かにする。	
	キリスト教学Ⅱ（新約聖書の世界）	キリスト教の正典の後半を構成している新約聖書には、旧約聖書から受け継ぎ、複雑な歴史と多様な文化との関わりの中で展開した思想（価値観、世界観、人間理解への洞察を含む）が観られる。本講義ではいくつかの主要テーマを取り上げ、聖書テキストの精読とともに、歴史と文化、及び自然風土等の背景理解の手助けを借りながら、キリスト教の基本的理解を確かにする。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教と女性）	旧約聖書の創世記における男女の創造から始まり、聖書に記された女性に関する物語や教えを検証しながら聖書の女性観を理解する。また、キリスト教の歴史において重要な貢献をした女性たちの思想や活動を学びながら、現代に生きる女性の生き方を考える力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教の歴史）	二千年前のキリスト教の成立から始まり、古代、中世、近代を経て今日に至るまでのキリスト教の歴史を概観する。その際、時代を特徴づける人物や出来事に触れ、現代を生きる我々にどのような関連を持つのかを考える力を修得する。	
	キリスト教学Ⅱ（日本のキリスト教）	16世紀のキリスト教伝来から今日に至るまでの、日本におけるキリスト教の歴史を概観し、キリスト教が日本の文化・教育・社会に与えた影響を広く理解する。さらに、重要な貢献をなしたキリスト者や運動を取り上げ、その思想と活動を考察し日本人とキリスト教の関係をの理解を深める。	
	キリスト教学Ⅱ（世界のキリスト教）	キリスト教は全世界に広がっているが、時代により地域によりそれぞれ独自の発展をしてきた。本講義では、ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカの諸地域のキリスト教を取り上げ、世界の諸地域のキリスト教の歴史や実情を理解する。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教と社会）	キリスト教が社会の形成にどのような役割を果たしてきたのか、さらに現代社会のかかえる諸問題とキリスト教がどのように関わり、実践活動を繰り広げているかを理解する。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教と現代の宗教事情）	キリスト教はローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタントの諸教会の3つの流れに分かれて展開してきた。この三者の思想、組織のあり方等を比較し、それらの特徴を理解する。また、世界に存在する諸宗教の中から主だったもの（ユダヤ教、イスラム教、仏教等）を取り上げ、キリスト教と比較しながら諸宗教を学ぶことにより、現代の宗教事情を読み解く力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教と倫理）	グローバル化し多元化する現代社会において、人はいかに生きるべきか（生の哲学）という問いをはじめとして、様々な今日的問い（性、環境、戦争等）にいかに応え得るのか。近代以降の倫理学の展開、その前提と枠組みを意識しつつ、キリスト教独自の倫理を、聖書テキストの精読を中心に、考える力を養う。	
	キリスト教学Ⅱ（キリスト教の思想）	約二千年前イスラエルの地に誕生した教会は、その後ギリシア・ローマ世界に拡大した。そこでユダヤの文化と、ギリシアの文化とが出会い、やがてキリスト教独自の考え方や思想が成立することとなる。神について、イエス・キリストについて、人間について、世界について、キリスト教はどのように考えてきたのか。こうした、その後の欧米文化の土台となったキリスト教独自の思想を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と芸術)	キリスト教が芸術・文化に与えてきた影響や、キリスト教が生み出してきた芸術・文化について学び、芸術や文化形成におけるキリスト教の役割について理解を深める。		
	キリスト教学Ⅱ (キリスト教と文学)	文学作品には作者の生き方や思想が反映されているが、それらは多くの場合、意識的あるいは無意識的に宗教や伝統から大きな影響を受けている。キリスト教の影響を大きく受けている欧米の文学作品を初めとして、日本及び諸外国の様々な作品を題材に、文学とキリスト教との関係を理解する。		
	キリスト教学Ⅲ(聖書と文化)	キリスト教をより深く理解するためには、聖書そのものの包括的、多角的理解が欠かせない。本講義では、特に聖書と文化との関わりに光を当て、キリスト教の中心思想及び諸文書の文学形式が、当時の文化を背景にしてどのように形成され展開していったのか、理解を深める。	「キリスト教学Ⅲ(聖書と文化)」 「キリスト教学Ⅲ(キリスト教の歴史と文化)」 「キリスト教学Ⅲ(キリスト教の思想と文化)」から毎年1科目開講	
	キリスト教学Ⅲ(キリスト教の歴史と文化)	キリスト教の歴史における重要な出来事や人物、運動、制度などを取り上げ、その意義を理解する。世界宗教としてのキリスト教が歴史、文化形成にどのように寄与したのかを深く掘り下げ、現代の諸問題とも関連づけて考える力を養う。		
	キリスト教学Ⅲ(キリスト教の思想と文化)	キリスト教の思想が、いかに西洋の思想や文化の基盤となっているかを理解する。さらに現代では、キリスト教思想がアジアやアフリカを含む世界の諸地域に広がり、新しい文化世界を生み出しているかを理解する。		
外国語科目	(第一外国語)			
	Communication Skills A	英語によるコミュニケーションに必要なリスニングおよびスピーキング能力を養うことを目標とする。日常生活のコミュニケーションにおいて必要とされる英語表現を学ぶことで、実践的な英語の運用能力を育成する。特に、日常会話の中で頻出する語彙、連語、決まり文句、丁寧表現等に焦点を当てる。ロールプレイやグループワーク等の教室活動を通して、会話能力を高め、効果的なコミュニケーションのテクニックの習得を目指す。授業のほかに、CALL教室を使用している自習プログラム(e-learning)を義務付けている。		
	Communication Skills B	英語によるコミュニケーションに必要なリスニングおよびスピーキング能力を養うことを目標とする。日常生活のコミュニケーションにおいて必要とされる英語表現を学ぶことで、実践的な英語の運用能力を育成する。特に、日常会話の中で頻出する語彙、連語、決まり文句、丁寧表現等に焦点を当てる。ロールプレイやグループワーク等の教室活動を通して、会話能力を高め、効果的なコミュニケーションのテクニックの習熟を目指すとともに、ストーリーテリングの力も養うことを目指す。授業のほかに、CALL教室を使用している自習プログラム(e-learning)を義務付けている。		
	Reading I A	高等学校卒業までに学んだことを土台に、大学で学ぶ専門領域の文献を英語で読む上で必要とされる基礎的な言語技能の習得を目標とする。特に、個々の文の正確な理解、パラグラフの理解、パラグラフ間のつながりの把握、文章の大意の把握等に重点を置きながら、基本的な読解力を養う。		
	Reading I B	大学で学ぶ専門領域の文献を英語で読む上で必要とされる基礎的な言語技能の習得を目標とする。特に、個々の文の正確な理解、パラグラフの理解、パラグラフ間のつながりの把握、文章の大意の把握等に重点を置きながら、基本的な読解力を養うとともに、文章の論理的整合性や論理的帰結を考える力を伸ばす。		

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Discussion Skills A	英語のスピーキング能力をペアワーク、グループワークを通して高めることを目指す。社会問題などさまざまなトピックに関する意見交換、グループ・ディスカッションにより、英語力のみならず、クリティカル・シンキング能力を養成する。ディスカッションに必要な語彙、文法、言語の機能を学ぶことに重点を置く。	
	Discussion Skills B	英語のスピーキング能力をペアワーク、グループワークを通して高めることを目指す。「Discussion Skills A」より難易度の高い論説文などを読み、社会問題などさまざまなトピックに関する意見交換、グループ・ディスカッションにより英語力のみならず、クリティカル・シンキング能力を養成する。3、4年次の専門につながる、高いレベルのディスカッションに必要な語彙、文法、言語の機能を学ぶことに重点を置く。	
	Reading II A	1年次の「Reading IA, IB」で習得した基礎的な英語を読む言語技能を土台に、より高度な教材を用い、更なる読解力の向上を目指す。大学で学ぶ専門領域の文献を読むための、英文読解のコツを学ぶことが第一の目的であるが、論理的に構成された英語の長文を読むことで、学術研究に不可欠な思考力を養うことも重要な目的である。扱う英文のジャンルは論説文、時事問題、エッセイ、短編小説など多岐にわたる。	
	Reading II B	1年次の「Reading IA, IB」で習得した基礎的な英語を読む言語技能を土台に、より高度な教材を用い、更なる読解力の向上を目指す。大学で学ぶ専門領域の文献を読むための、英文読解のコツを学ぶことが第一の目的であるが、論理的に構成された英語の長文を読むことで、学術研究に不可欠な思考力を養うことも重要な目的である。扱う英文のジャンルは論説文、時事問題、エッセイ、短編小説など多岐にわたる。「Reading IIA」よりも難易度の高い題材を用いる。	
	Speaking Skills A	必修科目であるCommunication Skills A, Bで学んだことを踏まえ、さらに口頭でのコミュニケーション能力を高めることを目標とする。相互交渉を行いながら進めるさまざまな会話の型を学び、語用論上のスキルや異文化間コミュニケーションに関するスキルの向上を目指し、効果的にコミュニケーションを行う力を養う。文法よりも言語の機能に焦点を当て、トピックには、アドバイス、旅行、休暇、健康、大学生活などを含む。教室活動は、グループワークが中心である。	
	Speaking Skills B	口頭での英語コミュニケーション能力を高め、英語で話す自信を深めることを目標とする。相互交渉を行いながら進める高いレベルの会話の型を学ぶと同時に、語用論上のスキルや異文化間コミュニケーションに関するスキルの向上を目指し、効果的にコミュニケーションを行う力を養う。トピックとしては、日常的な事柄に始まり、世界情勢、経済、意見の対比、意思決定など多岐にわたる。教室活動は、グループワークが中心である。	
	Listening and Presentation A	英語の聴解能力を高め、実際に各自が選んだトピックについてプレゼンテーションを行うことによってプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。視覚的にプレゼンテーションをすることも目指す。	
	Listening and Presentation B	英語の聴解能力を高め、実際に各自が選んだトピックについてプレゼンテーションを行うことによってプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。授業の進め方は、「Listening and Presentation A」と同様であるが、より多様で高度なプレゼンテーション能力の養成を目指す。	
	Critical Reading and Discussion A	「Discussion Skills A,B」および「Reading IA, IB」で学んだスキルをふまえた科目である。さまざまなテーマに関して英語で書かれたものを批判的に読み、議論をするスキルを養うことを主な目標とする。各自が集めた英文で書かれた雑誌、新聞記事などの内容を要約し、更にその記事のテーマに沿って意見交換をし、説得に導く議論をするという教室活動を通してそのスキルを養うことを試みる。更に、英語で書かれたものを数多く読むことによって語彙を増やすと共に、速読のスキルを養うことも目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Critical Reading and Discussion B	幅広いテーマに関して英語の長文を速読し、議論する力を身に付けることを目標とする。各自が集めた記事の内容を要約し、更にその記事のテーマに沿って議論をするという教室活動を通してそのスキルを養うことを試みる。雑誌、新聞記事のほかにも評論も読む。教室活動では、特に相手を論理的に説得するための方略に焦点を当てる。「Critical Reading and Discussion A」と同様に、英語で書かれたものを数多く読むことによって語彙を更に増やすことも目指す。	
	Journalistic English A	ジャーナリズムの世界で用いられる英語の特徴を習得することを目標とする。新聞記事に焦点を当て、その中で使われる語彙、文法や見出しの構造を学んだ上で、各自新聞記事の書き方に沿って記事を書くことを試みる。周辺のニュースになり得る題材を見つけ、それについて英語で新聞記事を書くというプロジェクトを完成させる。さらに、各自が選んだ様々な新聞記事等を読んで分析し、それについてディスカッションを展開する能力を養う。	
	Journalistic English B	ジャーナリズムの世界で用いられる英語の特徴を習得することを目標とする。新聞記事に用いられる英語だけでなく、ラジオ、テレビ、インターネットなどのメディアの英語にも焦点を当てる。それらに用いられる英語表現を学ぶと共に、内容についてもディスカッションを行う力を養う。プロジェクトとしては、誰かにインタビューをし、それについて英語で記事を書くことを試みる。	
	Academic Writing A	必修科目で学んだ総合的な英語力を土台に、多岐にわたる英文を批判的に読み、豊富な語彙や英語表現を身につけるだけでなく、思考する能力を養うこと、エッセイ・ライティングのスキルを習得することに重点を置きながら、さらにライティングの力を高めることを目標とする。各自が選んだトピックに関するエッセイを英文で書き、数回の修正を重ね、最終的に洗練されたエッセイとすることを旨とする。	
	Academic Writing B	「Academic Writing A」と同様に、必修科目で学んだ総合的な英語力を土台に、「Academic Writing A」より高度な英文を批判的に読み、豊富な語彙や英語表現を身につけるだけでなく、思考する能力を養うこと、エッセイ・ライティングのスキルを習得することに重点を置きながら、さらにライティングの力を高めることを目標とする。各自が選んだトピックに関する英文をピア・エディティングなどのグループ・ワークも取り入れて、修正を重ね、最終的に洗練されたエッセイを英文で書くことを旨とする。	
	English through Drama A	英語で書かれたドラマを読むだけでなく、実際に演じることで英語の発音を体得し、英語のリズム、表現方法を学ぶ。パフォーマンスを通して、公の場で英語によるプレゼンテーションを自信をもって、また楽しみながら行うことを目的とする。また言語による表現のみならず、身体を使つての表現を伴うドラマのパフォーマンスにより創造性を養う。「English through Drama B」とは異なるジャンルのドラマを扱う。	
	English through Drama B	英語で書かれたドラマを読むだけでなく、実際に演じることで英語の発音を体得し、英語のリズム、表現方法を学ぶ。パフォーマンスを通して、公の場で英語によるプレゼンテーションを自信をもって、また楽しみながら行うことを目的とする。また言語による表現のみならず、身体を使つての表現を伴うドラマのパフォーマンスにより創造性を養う。「English through Drama A」とは異なるジャンルのドラマを扱う。	
	Business English A	一般的なビジネスの分野で使用する実践的な英語力を養い、職場などで必要となるスピーキング、ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルの習得を目指す。特に、ビジネスで用いられる基本的な語彙・表現の習得、ビジネスメールや履歴書、願書、申請書などの作成、プレゼンテーション、電話による応対などの項目を含む。	
	Business English B	ビジネスの様々な分野で使用する実践的な英語力を養い、職場などで必要となる、より高度なスピーキング、ライティング、ディスカッション、プレゼンテーションのスキルの習得を目指す。特に、依頼や交渉の実践、ビジネス・ミーティング、企業のリサーチ、企業文化や習慣についてのディスカッションなどの項目を含む。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Translation A	日本語と英語の双方の感覚を研ぎ澄まして、言語の背景にある文化も考慮に入れ、ジャンルや読者層に合った英語／日本語に翻訳する能力を養う。各自が提出した訳文を、担当教員が添削し、その後、グループワークを通して推敲し、完成原稿を提出することで、日本語／英語の原文が表現する世界をこなれた英語／日本語で表現する力を体得する。「Translation A」は主に英語から日本語への翻訳を取り扱う。	
	Translation B	日本語と英語の双方の感覚を研ぎ澄まして、言語の背景にある文化も考慮に入れ、ジャンルや読者層に合った英語／日本語に翻訳する能力を養う。各自が提出した訳文を、担当教員が添削し、その後、グループワークを通して推敲し、完成原稿を提出することで、日本語／英語の原文が表現する世界をこなれた英語／日本語で表現する力を体得する。「Translation B」は主に日本語から英語への翻訳を取り扱う。	
	Tour Guide Interpreting A	外国人に日本の歴史・文化を英語で説明するためには、高度な語学力と日本事情全般に関する広範囲の知識が問われる。この授業では、そのための基礎となる英語力を養うとともに、日本について改めて学び、日本の歴史や文化を説明できる力を養成する。国際交流の場では日本について説明を求められる機会が多いため、日本のことを英語で発信する力を身に付けることは、通訳者を目指す一般の学習者にとっても有効である。	
	Tour Guide Interpreting B	外国人に日本の歴史・文化を英語で説明するためには、高度な語学力と日本事情全般に関する広範囲の知識が問われる。この授業では、多様な英語変種に対応できる聴解力を含む、より高度な英語力と、日本的な事象について専門的に説明ができる力を養成する。資格取得を見据えた授業ではあるが、日本語と英語を磨き、その語学力を将来のキャリアにつなげたいと考える一般の学習者にとっても有効である。	
	TOEIC講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果が収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、TOEICの試験対策に終わらず、社会でも役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。TOEICの内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でTOEIC模擬試験を体験する。	
	TOEFL講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果が収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、TOEFL iBTの試験対策に終わらず、留学や社会などで役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。TOEFL iBT試験の内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でTOEFL iBT模擬試験を体験する。	
	IELTS講座	国際的な英語力測定試験において期待される成果が収められるような実力を形成することを第一の目的としつつ、IELTSの試験対策に終わらず、留学や社会などで役立つ実践的な英語力を養成することを目指す。IELTS試験の内容・目的の説明とそれに備えた準備訓練を行い、授業内でIELTS模擬試験を体験する。	
	Basic Communicative English	英語能力が充分ではないと感じている学生のために設けられた科目である。1年次の必修科目であるCommunication Skills A, Bの授業を自信をもって受けることができるように、十分な聴解力と話す力を身につけ、英語でのコミュニケーション能力を養う。特に文法や発音に加えて、自然なコミュニケーションを行う上で必要な英語表現を学び、基本的な日常の事柄を口頭で述べるができるような力を養う。週2コマの授業。	
	Intensive English	この科目は、本学が企画し外国の大学が提供する語学研修(英語)、および本学があらかじめ認めた外国の大学が実施する語学研修(英語)に参加した学生が、所定の成績を修めた場合の単位認定科目である。語学研修は、聞き、話し、読み、書く4技能にわたる語学力の向上と異文化体験による自己研鑽をはかることを目的に実施され、参加学生のレベルを考慮したクラス編成により授業が行われる。学生には、事前学習会等への出席が義務付けられている他、準備段階から積極的に自己の語学力を高めていく努力が望まれる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(第二外国語)		
	ドイツ語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 ドイツ語は、英語やオランダ語などとともに西ゲルマン語に属し、語彙や文法など様々な面で英語との共通点が多い。それゆえ、ドイツ語を学ぶことによって英語を客観的に見る視点を養い、類縁言語比較の面白さを感じ得ることになることも視野に入れる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	フランス語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 論理的な明晰性と洗練を特徴とし、18世紀以降国際外交語としての地位を保ってきたフランス語は、ラテン語をもとにできた言語である。英語の語彙はラテン語やフランス語の影響を強く受けて発展してきたので、相互に学習を助け合える英仏2言語の学習が、国際人へと成長する第一歩となるよう、学力の向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	スペイン語初級	初級では、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 スペイン語は、母語人口で世界第3位、国際連合の公用語の一つであり、公用語としている国も20カ国にのぼる。また、現代のアメリカ社会を学ぼうとするにはスペイン語は欠かせない。世界の人々と交流し、国際的にも通用し得る学力の習得に至るよう向上を図る。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	中国語初級	初級では、正確な発音、音の表記に最も広く用いられているピンイン（ローマ字を用いる）、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 中国語は、東アジア歴史、文化について学び、これへの理解を深めようとする者にとって、欠かせない言語の一つである。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	韓国語初級	初級では、ハングルを覚え、正確な発音、基本的な文法のシステム、日常生活に必要な表現、語彙を集中的に学び、言語運用に不可欠な基礎的な力を培う。一通りの基本学習を終えた後は、比較的平易な文の読解や作文練習などによって語彙や表現の拡大を目指す。 日本語に最も近い外国語である韓国語は日本人にとって習得し易く、合理的に工夫された表音文字ハングルを覚えるのは容易である。しかし「似ている」と思われている隣り合う日韓の文化には大きく異なる面もある。韓国語の学習を通して、異なった文化や考え方に触れる貴重な機会ともさせる。 異文化理解への目を開くと同時に、現代社会のグローバル化に伴い英語圏以外の地域に知識の幅を広げることを目的とする。週2コマの授業。	
	ドイツ語（読解）A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ドイツ語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすドイツ語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	ドイツ語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、ドイツ語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	ドイツ語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすフランス語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、フランス語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	フランス語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語 (読解) A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スペイン語（読解） B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなすスペイン語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語（作文と文法）	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、スペイン語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	スペイン語（会話）	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語（読解） A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語（読解） B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす中国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語（作文と文法）	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、中国語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	中国語（会話）	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語（読解） A	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、様々なジャンルのテキストに親しみ、また、初級で習得した文法・語彙に関する知識を発展させ、辞書を用いて独力で正しい理解を得られるレベルに達することを目標とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	韓国語 (読解) B	読解力の養成を主たる目標とし、幅広いジャンルのテキストを教材に用いて、さらに複雑な構文、発展的語彙の理解と習得に努める。テキストを隅々まで正確に精読する訓練と、限られた時間で長文の大意を掴む訓練の、両者を平行して行う。併せてテキストの背景をなす韓国語圏の歴史・社会・文化への理解を一層深めることを図る。専攻する分野の学習や、社会人としての活動にも役立つよう、総合的な授業を行う。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語 (作文と文法)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、作文を通して、文法の知識を深めながら、韓国語の応用力を高める。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
	韓国語 (会話)	初級で学んだ基礎の発展を目指す。専門科目履修に必要な外国語の力を、様々な教材を用いて養うと同時に、異なる言語文化の多様なあり方に接し、高度の一般教養を培う役割も果たす授業を設けている。 本科目においては、聞く力をつけながら、口頭による表現力を向上させることを主眼とする。 この科目は同じ言語の初級4単位を既に修得したものが履修できる。	
(ギリシア語・ラテン語)			
	ギリシア語初級 1	西洋思想の源流であるギリシア哲学や新約聖書をより深く理解するためには、古典ギリシア語の単語や文法について一定の知識が必要となる。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ギリシア語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ギリシア語初級 2	この授業では、「ギリシア語初級 1」に引き続き古典ギリシア語の基礎文法の習得を進める。名詞・形容詞の第三変化や動詞の中動・受動相、接続法などを理解することを通じて、古典ギリシア語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
	ラテン語初級 1	古代から中世を経て近代に至る長い歴史をもつラテン語の規範である古典ラテン語は、人文諸科学を学ぶ者に必須の基本的教養である。この授業では、音読の方法や名詞・動詞・形容詞の基礎的な変化を理解することを通じて、古典ラテン語が持つ基本的な性格を概観することを目指す。	
	ラテン語初級 2	この授業では、「ラテン語初級 1」に引き続き古典ラテン語の基礎文法の習得を進める。動詞の直説法受動相各時制の人称変化、命令法、不定法、分詞の形などを理解することを通じて、古典ラテン語で書かれた原典を読み解く力の基礎を養う。	
日 本 語 科 目	日本語表現法	「日本語表現法 I」は、大学で学ぶ上で必要な日本語表現力として、論理的な文章表現・口頭表現の力を養うことを目的とする。その土台として、論理的文章を読み解き、ポイントを把握し的確に要約する力を身につける。その上で、自己の考えを論理的に構築する技法を習得する。これに加えて、書きことばと話しことばの違いを踏まえた適切な表現の仕方を学び、最終的に2000字前後の論述文を作成することを課して成果とする。グループワークを適宜取り入れながら、論理的表現力のみならず、批判的思考力も強化していく。	
情 報 処 理 科 目	情報処理技法 (リテラシ) I	インターネットをはじめとした今日の情報通信化社会で必要とされる基礎的な技能と概念を習得し、問題分析能力や問題解決能力を養うことを目的とする。コンピュータの基本操作、インターネット・WWW・電子メールの概念や仕組み、情報の検索と利用、著作権と引用、ファイルシステム、情報倫理、安全対策、ワープロ・表計算・プレゼンテーションの利用、などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報処理技法 (リテラシ) II	情報処理技法 (リテラシ) Iをもう1段階強化して実践的にアカデミックライティング技術とアカデミックなプレゼンテーション技術を習得する。そのために、Officeソフトを効果的に利用するためのスキルを身につける。また、アカデミックライティングやアカデミックなプレゼンテーション資料の作成を通して、論理的思考力を養う。すなわち文献検索の方法やインターネットの利用方法を学び、情報を効率良く検索し批判的に取捨選択し、それらを用いて生産的に自らのレポートや論文、発表資料として構成しなおす作業を、情報技術を用いて効率良く行える力を身につける。	
	情報処理技法 (Cプログラミング) I	コンピュータに対する命令を順に書いたものがプログラムである。プログラムは、オペレーティングシステムやアプリケーションプログラムなど既存のもの以外に、利用者が作成(プログラミング)することもできる。プログラムの仕組みを学んだ後、C言語を用いてプログラミングの基本を学ぶ。基本データ型(整数型、浮動小数点型)、式と演算子、プログラムの制御構造(順次・選択・反復)、関数を理解し、これらを用いたプログラムの作成を行う。	
	情報処理技法 (Cプログラミング) II	「情報処理技法(Cプログラミング) I」に引き続き、C言語を用いてプログラミングの基本を学ぶ。配列、文字列、ポインタ、構造体、ファイル入出力などを理解する。配列は複数の同じ型のデータを扱うもので、プログラミングにおける重要なデータ構造の一つである。配列の利用例として整列を取り上げる。文字列にも配列が使われる。構造体は複数の異なるデータを扱うもので、応用上重要である。ポインタはC言語に特徴的な機能で、高度なプログラミングには必須である。ポインタは配列とも密接な関係にあり、ファイル入出力もポインタを利用する。	
	情報処理技法 (Javaプログラミング) I	プログラムを記述することで人がコンピュータに命令をし、コンピュータが動作する際の基礎原理を、プログラミング言語Javaを用いて学習する。その後、変数やデータ型、標準入出力、条件分岐、配列、繰り返しなどのプログラミングの基本概念を理解する。これらの制御構造に関しては、各回において演習問題を用いて実習を行うことにより、より深い理解をし、学習したことを組み合わせることで簡単なプログラムを作成することができる技術を身につける。	
	情報処理技法 (Javaプログラミング) II	「情報処理技法 (Javaプログラミング) I」の発展として、Javaの特徴の1つである「オブジェクト指向」について、クラス概念や継承、集約等のオブジェクト指向技術の概要を理解し、その基礎的なプログラミング方法を学ぶ。あわせて、アルゴリズムにも触れる。これにより、ソフトウェアの内部構造にも触れ、ソフトウェアの動作の仕組みを学ぶ。また、これらの学習はプログラミングの実習を通して行う。ごく小規模なソフトウェアを作成する技術を習得する。	
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) I	情報を表現するための手段として静止画を取り上げ、静止画像のフォーマットやコンピュータでの色の表現の概念、スキャナ・デジタルスチルカメラの利用方法、写真のデジタル編集(Photo Retouch)、描画ソフトを利用した画像の作成と加工、GIFアニメーションなど、静止画表現に必要な知識や技術を実習を通して学ぶ。静止画作品を発表する媒体としてはWebを利用するため、HTMLやWeb公開の基礎から、ユニバーサルなWebデザイン、Webコンテンツ公開時の著作権や肖像権についても触れる。	
	情報処理技法 (マルチメディアと表現) II	情報を表現するための手段として動画を取り上げ、時間とともに変化するビデオ・コンテンツの表現手法について、着想・絵コンテの作成、撮影時のノウハウ、ノンリニア編集、圧縮・保存・公開する一連のDTVの過程を学ぶ。これらの過程は、デジタルビデオカメラを利用してビデオ素材を撮影し、作品を作成するという実習を通して実践的に学んでいく。作品は、YouTubeなどWebによる公開の他にCDやDVD、DVテープなどの多様なメディアでの表現についても学び、ビデオ・コンテンツ作成に関する知識と技術を習得する。	
	情報処理技法 (UNIXリテラシ)	Mac OS XやLinux等、UNIX (Unix系オペレーティングシステム) を端末 (ターミナルソフト) から使いこなす技術を身につける。コンピュータは、入力された情報を目的に応じて処理し、その結果を出力する装置である。UNIXの仕組みと特性を学ぶことにより、コンピュータのこのような仕組みを深く理解することができるようになる。この講義では、端末において様々なコマンドを組み合わせることで処理を行う実習を通して、コンピュータを自由に活用できる力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報処理技法 (統計解析)	取得した情報の分析のために、統計的データ解析の入門から応用までの講義を行う。観測データからどのようなことが推論付けられるか、また如何にして真に有効な、あるいは有益な情報を抽出することができるかを中心に解説する。統計解析ソフトとしては、普及率の高いExcelを用いる予定である。Excelを用いて、データ解析の方法 (データの集計、グラフ化、統計的方法による分析) について実習を行う。	
	情報処理技法 (ネットワークとセキュリティ)	インターネットをはじめとするコンピュータネットワークについて、基本的な仕組みを理解し、実習を通じてネットワークの基本的な設定の技術を身につける。ネットワーク利用時のセキュリティについてもあわせて学習する。これらの学習は、ネットワークケーブルの作成やPCへのネットワークの設定等の実習を行うことで、より理解が深まる。自宅等でのごく小規模なネットワークの構築をできるような技術を身につける。	
	情報処理技法 (Webでの情報表現)	受講者に前提知識を必要とせず、誰もが使いやすいWebサイトを実際に製作して発表する科目である。変化の激しいICT社会の中心となっているWebの重要性を理解し、高齢者や初心者や障害者などの誰もが使いやすいWebを、Web標準に準拠して制作するスキルを、設計・制作・評価のプロセスに分けて、実例やサイト制作実習で学ぶ。数ページで構成されるサイトの制作を最終課題とする。モバイル社会の対応も紹介する。	
	コンピュータ・サイエンス I	「コンピュータ・サイエンスII」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主に、ハードウェア構成や、コンピュータ上での情報の表現方法に関する知識を学ぶ。これらの内容を、適宜実習を交えることで理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
	コンピュータ・サイエンス II	「コンピュータ・サイエンスI」と併せて受講することにより、コンピュータの基本的な仕組みを理解し、自在に使いこなすための基礎的な素養を身につける。情報処理技術の知識面の基礎を重点的に扱う。この授業では、主にソフトウェアに着目し、OSの仕組みや役割、プログラムの言語処理方式、アルゴリズムやネットワーク等について学ぶ。適宜実習を通して、これらの内容の理解を深める。情報処理技術者試験などの情報処理関連の資格試験の基盤となる内容を広く含む。	
学 芸 員 課 程 科 目	博物館概論	博物館は、人間と人間を取り巻く環境に関する様々な「もの」を収集し、保存・調査・研究して、公開・活用している。こうした博物館に関する基礎知識、すなわち、博物館の意義と役割について学ぶ。博物館の定義・種類・歴史、さらに博物館関係法令や博物館学の役割などを順を追って学んでゆく。	
	博物館資料論	博物館はさまざまな資料を収集し、整理・分類・調査・研究し、保存・活用している。資料の収集では、購入・寄贈・借用・採集など具体的方法を学ぶ。資料の分類・整理では、多様な資料の分類と整理、そして調査・研究を経て、目録や図録の作成と情報発信に至るまでを学ぶ。なお、資料の保存は「博物館資料保存論」で、資料の活用は「博物館展示論」で主に展開される。	
	博物館経営論	博物館を運営するための基本的な仕組みを学ぶ。博物館運営の枠組は大きくは①予算、②組織 (人事)、③施設などからなり、その運営にあたっては、会社や学校などとは異なる博物館特有の問題がある。こうした点を踏まえながら博物館運営の特質を学ぶ。社会と博物館との関係の築き方については、展示はもとより、様々な関連イベント、利用者との関係づくりなど、様々な事業活動がある。博物館経営の視点からそれら事業活動の現状と課題について学ぶ。	
	博物館資料保存論	温度・湿度・照明・大気などが資料の保存にどのような影響を与えるかを学び、同時に対策を考える。同じく生物が資料に与える害と対策を学ぶ。そして、資料保存の歴史と意義、さらに資料の修復や複製品の製作、屋外の文化財の保存や災害の防止と対策などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	博物館展示論	博物館のもつ外的事業の軸となる展示活動について、①企画・立案、②資料の選択、③展示案の確定、④解説プレート・図録の作成、⑤会場の設営、⑥展示の実行、⑦関連事業、⑧広報、⑨後片付けなど、一つの展示達成のための作業を逐一詳しく学ぶ。同時に関連事業やイベントの在り方、ボランティアの活用など、市民参加の展示活動の実態についても学ぶ。	
	博物館教育論	博物館における教育の意義と理念を学ぶ。学びの場としての博物館は、実物を見ることができること、体験できることという利点をもっている。学校教育との連携や多様化しつつある教育のあり方の中で、博物館が担うべき部分の工夫と創造を模索する。	
	生涯学習論	生涯学習の意義を考えつつ、老人・主婦・サラリーマン・学生など全ての人々の学習の場のあり方を、国内外の具体例を検証し、学ぶ。また、公民館職員・図書館司書・博物館学芸員など社会教育に携わる人々の役割と使命を考える。	
	博物館情報・メディア論	博物館における情報・メディアの意義および情報発信の課題を学ぶ。併せて、さまざまな情報を掴みとること、および、視覚をはじめ人間のもつ五感に訴える効果的・効率的な情報機器の活用法を学ぶ。これらの学習をとおして博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的な能力を養う。	
	博物館実習 1	資料の取り扱い方に関する基本的知識・技術の習得を目標として、巻物や掛け軸などの実物資料を用いた実習を行う。またそれを踏まえ、調査研究をはじめとした諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 2	博物館実習 1 の授業内容を踏まえ、資料の取り扱いをとおした博物館の諸事業、たとえば展示の企画立案・広報・関連事業などの諸業務の遂行力を実習をとおして養う。これら個々の作業や実務は一見独立しているかに見えるが、実際には博物館活動の中では相互に関連している。こうした博物館実務の一端と相互の関連性を実習を通じて学ぶ。また、博物館運営の現状についてより深く理解するために、様々な館種の博物館見学を行い、博物館の諸業務の実態と課題を学ぶ。	
	博物館実習 3	本授業は、①実際の博物館現場における7～10日程度の博物館実務実習（館園実習）、②学内における事前・事後指導の授業、③個別の指導によって構成される。博物館実務の一端は「博物館実習1・2」で習得しており、この授業では実際の博物館の現場において、諸業務の実際を現場体験することで、運営実務の実践的能力を習得する。実習期間中は担当学芸員の指導を受けつつ実務を学び、実習ノートを作成して担当学芸員に提出し、その指導を受け、翌日には改善するなど積極的に学ぶようにする。学内においても実習効果を高めるため事前・事後指導の授業、個別指導を行う。	
外国 人留 学生 特別 科目	日本語 I (入門)	外国人留学生在が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語 I (入門)」は、入門として受講者の日本語能力を考慮し、運用能力の向上を目指す。受講者個々の理解度を確認しつつ、2名の担当者が相互に連絡・調整を行いながら進める。 「日本語 II (応用)」とともに第一外国語の必修単位に代えることができる。 週 4 コマの授業。	
	日本語 II (応用)	外国人留学生在が大学での学習に必要な基礎的な日本語スキルを習得することを目標とする。「日本語 I (入門)」で学んだことを応用して、さらに日本語の運用能力の向上を目指す。専門科目等で必要な発表、プレゼンテーションの技術も修得する。受講生個々の理解度を確認しつつ、担当者相互に連絡・調整を行いながら進める。 「日本語 I (入門)」とともに第一外国語の必修単位に代えることができる。 週 4 コマの授業。	

授 業 科 目 の 概 要

(現代教養学部 心理・コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語初級 I	外国人留学生在が英語のReading、Listening、Speaking、Writingの力をバランスよく習得することを目標とする。受講者の英語力に合わせて、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。「英語初級Ⅱ」とともに第二外国語の必修単位に代えることができる。週2コマの授業。	
	英語初級Ⅱ	外国人留学生在が英語のReading、Listening、Speaking、Writingの力をバランスよく習得することを目標とする。「英語初級Ⅰ」で学んだことを踏まえて、さらに英語の運用能力の向上を目指す。受講者の英語力、理解度を確認しながら、興味深い教材を使用して、読解力、表現力等の育成を目指す。「英語初級Ⅰ」とともに第二外国語の必修単位に代えることができる。週2コマの授業。	
	日本事情A	「人間社会の仕組みと問題」をテーマとし、外国人留学生在が日本語で日本の社会について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間社会の仕組みと問題」領域の2単位に代えることができる。	
	日本事情B	「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生在が日本語で日本の歴史について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。	
	日本事情C	「人間自身を知る」をテーマとし、外国人留学生在が日本語で日本の思想、宗教、日本人のこころ等について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間自身を知る」領域の2単位に代えることができる。	
	日本事情D	「人間の知的生産」をテーマとし、外国人留学生在が日本語で日本の文化について学習することにより、日本に対する理解を深める。あわせて日本語の運用能力を高める。日本以外の国や地域との比較、現代と過去との比較の視点を織り込む。授業は双方向的な演習の要素を取り入れて行う。 総合教養科目の「人間の知的生産」領域の2単位に代えることができる。	

組織の移行表

学部等の設置、収容定員の変更

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
平成 29(2017)年度				平成 30(2018)年度				
東京女子大学				東京女子大学				
現代教養学部				現代教養学部				
人文学科	345	-	1380	<u>国際英語学科</u>	<u>155</u>	-	<u>620</u>	学科の設置(届出)
国際社会学科	225	-	900	人文学科	<u>200</u>	-	<u>800</u>	定員変更(△145)
人間科学科	260	-	1040	国際社会学科	<u>270</u>	-	<u>1080</u>	定員変更(45)
					<u>0</u>		<u>0</u>	平成 30 年 4 月学生 募集停止
				<u>心理・コミュニケー ション学科</u>	<u>195</u>	-	<u>780</u>	学科の設置(届出)
	60	-	240	数理科学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更(10)
数理科学科				計	890	-	3560	
計	890	-	3560					
東京女子大学大学院				東京女子大学大学院				
人間科学研究科				人間科学研究科				
人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22		44	人間文化科学専攻 (博士前期課程)	22		44	
人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4		12	人間文化科学専攻 (博士後期課程)	4		12	
人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20		40	人間社会科学専攻 (博士前期課程)	20		40	
生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5		15	生涯人間科学専攻 (博士後期課程)	5		15	
理学研究科				理学研究科				
数学専攻 (博士前期課程)	6		12	数学専攻 (博士前期課程)	6		12	
数学専攻 (博士後期課程)	3		9	数学専攻 (博士後期課程)	3		9	
計	60		132	計	60		132	